

# 平成 27 年度事業報告書

平成 28 年 5 月

横浜市立みなと赤十字病院

## 目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	8
2-1	24時間365日の救急医療及び2次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組み	25
3-1	患者支援	
3-2	ハートセンター	
4	地域医療の質の向上に向けた取組み	31
4-1	医療における安全管理（安全）	
4-2	医療における安全管理（感染）	
4-3	医療倫理に基づく医療の提供	
4-4	地域医療機関との連携・支援（医療連携係）	
4-5	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4-6	市民委員会	
4-7	治験・受託研究	
4-8	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-9	患者サービス	
4-10	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	59
5-1	職員研修（医師）	
5-2	職員研修（看護部）	
5-3	職員研修（薬剤部）	
5-4	職員研修（医療技術部門）	
5-5	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	71
6-1	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
7	職員	77
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
8	施設管理	80
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	86
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

# 1 概要

## 1-1 施設概要

### 1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

### 2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

### 3 開設年月日

平成17年4月1日

### 4 病床数

634床（一般584床、精神50床）

### 5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上36科

### 6 沿革

- ・平成15年3月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成15年9月 横浜市会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成15年11月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置  
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成16年1月 評価委員会が提案書による競争の結果として、「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成16年2月 横浜市会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成16年9月 横浜市会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定
- ・平成17年4月 横浜市立みなと赤十字病院が開院 初代院長 西岡 清

病床数 584 床、23 診療科

瀬谷区にあった横浜市小児アレルギーセンター（平成 17 年 3 月 31 日閉院）の機能を移転

- ・平成 18 年 4 月 精神科診療開始（入院は平成 19 年 5 月から）
- ・平成 18 年 9 月 地域医療機関向け広報誌「みなとからの風」発刊
- ・平成 19 年 3 月 病院機能評価 Ver5.0 取得
- ・平成 19 年 5 月 精神科 50 床運営開始、病床数 634 床
- ・平成 19 年 7 月 新潟県中越沖地震発生、救護班派遣
- ・平成 21 年 2 月 地域医療支援病院承認
- ・平成 21 年 4 月 救命救急センターの指定
- ・平成 22 年 3 月 神奈川県 DMAT 指定病院
- ・平成 22 年 7 月 第 2 代院長 四宮 謙一 就任
- ・平成 23 年 3 月 東日本大震災発生、救護班・神奈川 DMAT 派遣  
災害備蓄倉庫竣工
- ・平成 23 年 5 月 病院広報誌「みなと赤十字病院だより」発刊
- ・平成 23 年 11 月 がんセンター、がん相談支援センター開設
- ・平成 24 年 3 月 病院機能評価 Ver6.0 取得
- ・平成 24 年 4 月 地域がん診療連携拠点病院の指定
- ・平成 24 年 7 月 地域周産期母子医療センターの認定
- ・平成 24 年 11 月 病院広報誌リニューアル「みんなのみなと」発刊
- ・平成 25 年 1 月 PET/CT 導入
- ・平成 25 年 4 月 標榜科を 23 診療科から 36 診療科へ細分化
- ・平成 26 年 2 月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入
- ・平成 26 年 3 月 神奈川県 DMAT-L 指定病院
- ・平成 26 年 11 月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区  
海上保安本部と合意
- ・平成 27 年 4 月 臨床試験支援センター開設  
リハビリテーションセンター開設  
外傷センター開設  
心臓病センター開設
- ・平成 27 年 9 月 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨発生、救護班・神奈川 DMAT  
派遣
- ・平成 27 年 10 月 カスタマーリレーションセンター開設  
新 MRI 導入（PHILIPS 社製 Ingenia 3.0T CX）

1 - 2 建物図

8階	病棟
7階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
6階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
5階	A病棟 C病棟 D病棟 NICU 透析室 精神科外来 化学療法センター スキルラボ 理容室 コンビニエンスストア 患者図書室
4階	電気室・機械室
3階	救急病棟 ICU HCU CCU 手術室 心臓カテーテル室 医局 医局図書室 看護部 事務部 臨床教育研修センター 医療情報センター 会議室
2階	健診センター アレルギーセンター 緩和ケアセンター 乳腺外科外来 放射線科 (X線撮影 CT MRI 血管撮影 心臓カテーテル) 内視鏡検査室 検査部 (検体 輸血 病理 最近) 調度課・SPD ME 栄養課 調理室
1階	総合内科 (内分泌内科、リウマチ科、血液内科) 消化器内科 外科 心臓病センター (循環器内科、 心臓血管外科) 脳神経センター (神経内科、脳神経外科) 麻酔科 呼吸器病センター (呼吸器内 科・呼吸器外科) 整形外科 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 耳鼻いんこう科 眼科 小児科 産婦人科 形成外科 歯科口腔外科 リハビリテーションセンター  薬剤部 中央検査 (採血 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波) 救急外来 (受付 診察室 処置室 X線撮影 CT)  総合案内 療養・福祉相談室 医療連携センター 栄養指導室 紹介受付 新患受付 証明書発行受付 再来受付コーナー お薬相談室 中央待合ホール 自動精算機 入院業務課 外来業務課  正面入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 防災センター レストラン カフェ ATM コンビニエンスストア
B1階	放射線科 (RI リニアック PET/CT) 地下出入口 地下駐車場 霊安室 職員食堂
B2階	免震ピット

## 1-3 施設基準取得状況

### 1 基本診療科

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算  
歯科診療特別対応連携加算 一般病棟入院基本料（7対1）  
総合入院体制加算2 臨床研修病院入院診療加算（医科・歯科）  
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算  
妊産婦緊急搬送入院加算 診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算2  
急性期看護補助体制加算 看護配置加算 療養環境加算  
重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算1 重症皮膚潰瘍管理加算  
緩和ケア診療加算 精神科応急入院施設管理加算 がん診療連携拠点病院加算  
栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1 感染防止対策加算1  
患者サポート体制充実加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算 退院調整加算  
救急搬送患者地域連携紹介加算  
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 呼吸ケアチーム加算  
病棟薬剤業務実施加算 データ提出加算2 地域歯科診療支援病院入院加算  
救命救急入院料1 特定集中治療室管理料1 ハイケアユニット入院医療管理料1  
新生児特定集中治療室管理料2 小児入院医療管理料3 緩和ケア病棟入院料  
精神科救急・合併症入院料

### 2 特掲診療料

植込型除細動器移行期加算 高度難聴指導管理料 糖尿病合併症管理料  
がん性疼痛緩和指導管理料 がん患者指導管理料1 がん患者指導管理料2  
がん患者指導管理料3 外来緩和ケア管理料 糖尿病透析予防指導管理料  
地域連携小児夜間・休日診療料2 院内トリアージ実施料  
外来リハビリテーション診療料 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料  
開放型病院共同指導料 地域連携診療計画管理料（大腿骨・脳卒中）  
ハイリスク妊産婦共同管理料（I） がん治療連携計画策定料  
がん治療連携管理料 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料  
医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2 医療機器安全管理料（歯科）  
歯科治療総合医療管理料 持続血糖測定器加算 造血器腫瘍遺伝子検査  
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）  
検体検査管理加算Ⅰ 検体検査管理加算Ⅱ  
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 植込型心電図検査  
時間内歩行検査 胎児心エコー法 ヘッドアップティルト検査  
皮下連続式グルコース測定 神経学的検査 ロービジョン検査判断料  
小児食物アレルギー負荷検査 内服・点滴誘発試験  
センチネルリンパ節生検（併用） センチネルリンパ節生検（単独）



画像診断管理加算 1 ポジトロン断層撮影  
 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影  
 CT撮影及びMRI撮影 大腸CT撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
 外来化学療法加算 1 無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション科 (I)  
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 運動器リハビリテーション料 (I)  
 呼吸器リハビリテーション料 (I) がん患者リハビリテーション料  
 歯科口腔リハビリテーション料 2  
 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)  
 医療保護入院等診療料 処置の休日加算 1 処置の時間外加算 1  
 処置の深夜加算 1 透析液水質確保加算 1 エタノールの局所注入 (甲状腺)  
 エタノールの局所注入 (副甲状腺) CAD/CAM冠  
 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算  
 組織拡張器による再建手術 (乳房 (再建手術) の場合に限る。)  
 脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術  
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術  
 上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る。)  
 下顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る。)  
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1 乳がんセンチネルリンパ節加算 2  
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後) 経皮的冠動脈形成術  
 経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの) 経皮的冠動脈ステント留置術  
 経皮的中隔心筋焼灼術 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術  
 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術  
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術  
 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術 (レーザー  
 シースを用いるもの)  
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型  
 除細動器交換術  
 大動脈バルーンポンピング法 (IABP法) 経皮的大動脈遮断術  
 ダメージコントロール手術 体外衝撃波胆石破碎術 腹腔鏡下肝切除術  
 体外衝撃波膀胱石破碎術 腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術  
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術  
 膀胱水压拡張術 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術  
 人工尿道括約筋植込・置換術  
 医科点数表第 2 章第 1 0 節手術の通則 5 及び 6 (歯科点数表第 2 章第 9 部手術の通  
 則 4 を含む。) に掲げる手術  
 手術の休日加算 1 手術の時間外加算 1 手術の深夜加算 1  
 医科点数表第 2 章第 1 0 部手術の通則の 1 6 に掲げる手術  
 輸血管管理料 I 輸血適正使用加算 自己生体組織接着剤作成術  
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 内視鏡手術用支援機器加算

胃瘻造設時嚥下機能評価加算 歯周組織再生誘導手術  
広範囲顎骨支持型装置埋入手術 麻酔管理料（Ⅰ） 麻酔管理料（Ⅱ）  
放射線治療専任加算 外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療  
1回線量増加加算 画像誘導放射線治療加算（IGRT）  
体外照射呼吸性移動対策加算 直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）  
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 病理診断管理加算1  
クラウン・ブリッジ維持管理料

### 3 入院時食事療養

入院時食事療養Ⅰ 特別食加算 食堂加算

### 4 評価療養

先進医療（超音波骨折治療法） 医薬品の治験に係る診療  
医療機器の治験に係る診療

### 5 選定療養

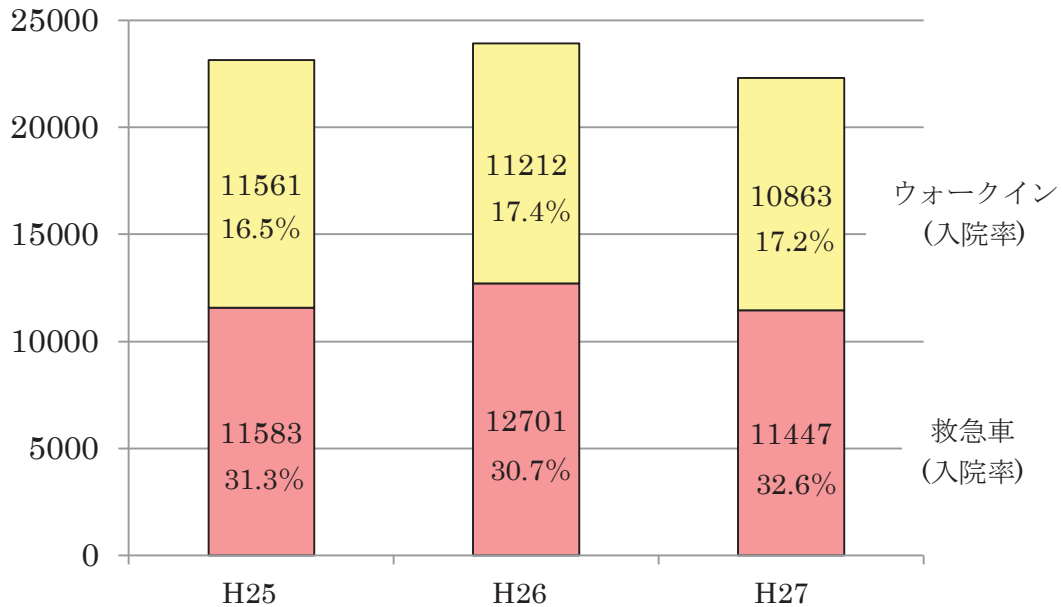
病院の初診 特別の療養環境の提供 入院期間が180日を超える入院

## **2 政策的医療**

## 2-1 24時間365日の救急医療

### 1 データ

来院経路別救急患者数と入院率



### 2 成果

前年に比べ救急患者数はやや減少したが、救急車収容台数は11000台以上を維持している。全国的にも1万台を越える施設はほとんどなく依然全国屈指の収容数といえる。救急車収容数に反比例して入院率はやや上昇している。軽症例を三次施設に搬送しないという政策誘導が奏功しているのかもしれない。しかし見方を変えると、救急車で搬入例でも70%は入院を必要としない中等症以下であるという問題は引き続いている。

### 3 課題

年間11000台の救急車の受け入れとは、単純に計算して一日30台（日中10台、夜間20台）となる。これとほぼ同数のウォークイン患者を受け入れているため、救急外来の機能としてはほぼ限界に達している。この数値は今後もなんとか維持したいが、日中一般外来の選定療養費徴取により夜間救急外来に患者が流れるようなことがあれば安全な診療体制を維持できない可能性が高い。

## 2-2 小児救急医療

### 1 データ・成果

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
小児科救急患者数	3,543 件	3,266 件	3,314 件
うち、入院患者数	353 件	411 件	489 件
救急車受入件数	505 件	578 件	740 件
入院患者数	1,219 人	1,352 人	1,302 人
児童虐待防止委員会	定例会 1 回 臨時 12 回	定例会 1 回 臨時 12 回	定例会 1 回 臨時 3 回

救急患者数の減少は予防接種の普及による急性疾患の減少によるものである。地域の小児救急患者には適切に対応している。過去 10 年間で小児外来患者数は全国で減少している。全国平均は-23.6%であり、横浜市立みなと赤十字病院では-19.7%であった。

平成 22 年度～平成 26 年度の母体搬送受入数及び新生児搬送受入数													
母体搬送受入													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 22 年度	0	1	0	0	1	1	0	1	2	1	1	3	11
平成 23 年度	1	0	1	3	1	2	2	0	1	0	0	2	13
平成 24 年度	0	0	1	0	0	1	2	3	3	0	4	0	14
平成 25 年度	0	4	2	2	1	2	0	0	2	0	3	0	16
平成 26 年度	4	1	1	5	3	0	3	3	0	1	0	2	23
平成 27 年度	3	3	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	13
新生児搬送受入													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 22 年度	3	2	0	1	1	1	1	1	3	3	1	1	18
平成 23 年度	0	1	1	1	3	2	0	2	0	2	0	0	12
平成 24 年度	4	1	1	3	1	1	0	0	1	0	0	1	13
平成 25 年度	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
平成 26 年度	0	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	0	7
平成 27 年度	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	7

神奈川県周産期医療体制整備計画等により横浜市内のNICUは充足している。このため、総合周産期母子医療センター（基幹病院）で受入困難な新生児搬送は減少している。基幹病院のNICUに余裕があるため基幹病院から中核病院へのバックトランスファーも減少している。このため、中核病院である当院のNICU利用率は低下している。

救急患者は減少しているが、地域では支援が必要な家庭は増加していると推定されている。外傷を主訴に救急外来を受診した患児・家族のチェックリストを用いた要支援家庭のスクリーニングを検討している。

## 2 課題

予防接種の普及、少子化による小児急性期疾患患者の減少は今後も続くことが予想される。24時間、365日の小児救急対応に必要なマンパワーには変わりはないが、患者数の減少による収益減少への対応が今後の課題である。

## 2-3 周産期救急医療

### 1 データ

周産期救急医療は主に母体搬送、新生児搬送にかかわることである。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩、なども含まれる。また、精神疾患、身体疾患合併妊婦の妊娠中期以降、必要時からの受け入れも病病連携または病診連携として行っており、これは広義の周産期救急に当てはまる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成 24 年 7 月 25 日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受け入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受け入れの基準は妊娠 30 週以降、推定体重 1250g 以上としている。

<母体搬送受け入れ数>

平成 25 年度 19 例

平成 26 年度 23 例

平成 27 年度 24 例

<飛び込み分娩数>

平成 25 年度 1 例

平成 26 年度 1 例

平成 27 年度 1 例

<分娩総数>

平成 25 年度は 958 例

平成 26 年度は 1071 例

平成 27 年度は 964 例

### 2 成果

分娩総数は 1000 件前後である。常勤医師 5 名（うち 2 名は当直なし）で、月平均 90 例の分娩を取り扱っている。

産科は 24 時間 365 日の体制で当直を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、手術室、麻酔科も協力の上で成り立っている事である。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療

に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考えてる。

### 3 課題

慢性的な医師不足により分娩制限を行う必要がある。ハード面、医師数、助産師数から安全面を考慮し限界がある。次年度以降の取り組みとしては、この点の改善を図り、将来的な分娩数の増加が安全が確保されたうえで可能となるような体制を作る必要がある。そのためには、産科常勤医師 10 名以上、麻酔科当直体制などが必要である。依然として産科常勤医師を安定的に確保する見通しは立っておらず、大学からの派遣と後期研修医の就職とその教育が必要である。助産師については、安定して確保しているものの、分娩数の増加に対応し、安全な分娩を行うためには、より多くの助産師を確保することが望まれる。また、無痛分娩、院内助産、などはすでに施行しているが、更に充実させることにより分娩の質の向上、満足度の向上もはかりたい。



## 2-4 精神科救急医療

### 1 データ

平成 27 年度実績

	受け入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3次救急	31	23	21	2	0	20	3	0
2次救急	13	13	—	13	0	8	4	1

・平均在院日数：21.3日（院内後方を除いた平均在院日数：22.1日）

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
3次救急	15	37	35	42	39	51	44	26	31
2次救急	4	7	19	12	9	7	9	13	13

### 2 成果

- ・実施要項に準じて人員を配置し、精神科救急医療を滞りなく行えた。
- ・政策医療とは別に、自殺企図例などで救急病棟より精神科病棟に入院する例もある。

### 3 課題

- ・平均在院日数がやや長い。  
→速やかな後方転送を目指し、精神症状のコントロールに努め、円滑な転院に向けての働きかけを行う。
- ・年度により精神科医師に欠員がでることがあった。  
→精神保健指定医の安定確保に努める。
- ・救急部を受診したが身体的な問題はなく、精神症状のみ入院適応がある患者がいる。当院の精神科病棟が満床の場合に、受け入れ先の調整に苦慮することがある。

## 2-5 精神科身体合併症医療

### 1 データ

		H25 年度	H26 年度	H27 年度
身体合併症事業計		112	89	105
当院受入数		77	64	84
入院数		56	43	64
平均在院日数		23	24.7	19.1
転 帰	依頼元病院	51	38	55
	他病院	1	4	3
	退院	1	0	1
	入院中	0	0	3
	死亡	3	1	2

### 2 成果

- ・平成 20 年度以降、年間の受け入れ数は約 70～90 件で推移している。  
これは、身体合併症転院事業の 7-8 割にあたる。
- ・この他、時間外に行政を介さずに受け入れた症例もある。

### 3 課題

- ・引き続き、身体科医師の協力体制のもとで同事業を円滑に進める。
- ・より多くの患者に必要な医療を提供できるよう、入院期間ができるだけ短期間となるよう心がける。

## 2-6 緩和ケア医療

### 1 データ

#### (1) 緩和ケア病棟実績

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
入院患者	実数	224 名	231 名	287 名
	延べ数	6807 名	6817 名	7500 名
	緊急入院数	13 名	14 名	17 名
平均在院日数		31.1 日	30.0 日	26.2 日
患者実数	男	125 名	138 名	169 名
	女	99 名	93 名	118 名
平均年齢		74.0 歳	73.3 歳	72.5 歳
退院内訳	退院	214 名	227 名	267 名
稼働率		74.0%	73.3%	82.2%
	死亡	162 名	197 名	234 名
緩和ケア病棟 への入院経路	院内転棟	114 件	118 名	148 名
	市内医療機関 からの紹介	66 件	76 名	139 名
ボランティア 延べ人数		67 名	80 名	72 名

#### (2) 緩和ケアチーム実績

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
緩和ケアチー ムへの依頼数	新規	145 件	106 件	144 件
	継続	3 件	6 件	5 件
	延べ件数	2646 件	1513 件	2178 件
麻薬管理加算		126 名	85 名	123 名
入院精神療法 加算		43 名	40 名	27 名

#### 緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケアが 53%  
せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケアが 9%

## 2 成果

- ・緩和ケア内科医の増員が得られず、マンパワー不足が続いた。ただし、次年度から緩和ケア内科医 1 名の増員(常勤医 2 名体制)の目途がついた。
- ・5 月から他科から入院の際、主治医を継続してもらうなど、緩和ケア病棟入院の体制を変更した結果、稼働率の増加を得られた。他科が緩和ケア病棟を実際に使い、緩和ケア病棟の理解・協力が進んだ。
- ・マンパワー不足は変わらないが、同じメンバーでの機動力・認知性が上昇した結果、依頼数、麻薬管理加算数が増加し、院内での緩和ケアにチームがさらに貢献できた。
- ・応援医師の協力の下、緩和ケア外来を維持した。
- ・院内・院外スタッフの協力を得て、緩和ケア研修会(平成 27 年 6 月)、緩和ケア講演会(平成 28 年 1 月)を開催した。さらに、病病連携会から発足した「横浜みんなの緩和ケア勉強会(横浜市内 7 病院が参加)」で、平成 26 年 5 月に第 1 回、平成 27 年 10 月に第 2 回勉強会を 7 病院合同で開催した。院内外での緩和ケアの啓蒙、推進に貢献を広げられた。

## 3 課題

- ・緩和ケア内科常勤医増員の下、緩和ケア病棟の安定した運営と、稼働率向上(85%以上維持)を目指す。
- ・緩和ケアの啓蒙・普及のため、院内スタッフ協力者も増やして、緩和ケア研修会を通し、がん診療に携わるすべての医療スタッフの基本的緩和ケアの知識の普及を目指す。上記目標達成のため、今年度は、研修会を年 2 回として研修会修了者を増やす。
- ・すべての入院がん患者の苦痛の発見、対応を目指し、苦痛のスクリーニングの対象を拡大していく。神奈川県緩和ケア部会の参加病院とも連携して向上を目指す。
- ・研修会、講演会、勉強会等の開催を通し、緩和ケアの啓蒙、普及に引き続き貢献する。かつ、地域の医療機関との連携の拡大、及び絆がさらに深まることを目指す。
- ・院内外医療機関との連携の下、在宅医療と入院において、切れ目のない医療が提供できるよう、チーム医療の充実を図る。

## 2-7 アレルギー疾患診療

### 1 データ(平成25~27年比較)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外来アレルギー患者数 (延べ数)	16,317人	16,143人	18,540人
呼気一酸化窒素測定	4,331件	3,305件	3,718件
気道過敏性試験	89件	71件	82件
プリックテスト	117件	127件	162件
エピペン処方数	125件	229件	316件
喘息カンファレンス	6回	6回	5回
食物・薬物アレルギー カンファレンス	6回	6回	6回
食物アレルギー研修		39回	38回
講演会	8回	5回	4回
みなとセミナー	3回	2回	2回
市民フォーラム	3回	2回	2回
患者教室	11回	11回	11回
小児喘息キャンプ	1回	1回	1回
誌上発表	15件	18件	19件
学会発表	21件	25件	29件
新薬開発治験	6件	10件	13件
自主臨床試験	20件	22件	30件

### 2 成果

市民への相談・情報提供、啓発活動については、前年度とほぼ同様の成果となった。保育所や学校等の職員に対する食物アレルギー指導研修業務の拡大のために、アレルギー専門小児科医師3名の協力を確保し、依頼元からの要望に柔軟に対応した。臨床研究については、継続中のARMS研究(遠隔医療)とEARTH研究(環境アレルギー)の組み合わせによる「個別喘息予報」の準備が年度中に整い、28年度より配信開始となった。診療については、危急の課題であったアレルギー科常勤医師の増員が決定した。地域医療連携についても最新の舌下免疫療法を目的とした病診連携会を発足させて連携強化と拡大を図ることができた。

### 3 課題

日本専門医機構の指導により来年度に開始予定の新専門医制度下、アレルギーセンターがアレルギー専門医研修基幹施設に認定されるべく、引き続きアレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リウマチ内科のアレルギー専門医・指導医、リウマチ専門医・指導医の確保と育成に努める必要がある。

## 2-8 障害児者合併症医療

### 1 データ

	H25年度	H26年度	H27年度
入院患者延べ人数	234名	260名	102名
入院患者実人数	11名	12名	12名
1患者あたり入院回数	1～10回	1～5回	1～4回
年齢	6～43歳	2～40歳	5～39歳
メディカルショートステイ利用者数	4名	9名	8名
障害児者委員会	年4回 開催	年4回 開催	年3回 開催

### 2 成果

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討した。

メディカルショートステイの円滑な対応のための実務者研修(看護師1名、リハビリ2名)に参加した。

### 3 現状と課題

旧横浜市立港湾病院からの継続医療患者への適切な医療の提供、障害児者医療への職員の研修啓発に努める。また、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図っていく。

横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として対象患者の受け入れを継続する。

## 2-9 災害時医療

### 1 データ

#### (1) 救護活動状況

名称	日程	派遣先	派遣者
台風第 18 号等大雨災害	9 月 11 日	神奈川県庁	災害医療コーディネーター1名
	9 月 11 日	神奈川県庁内DMA T調整本部	DMAT隊員 医師 1 名、調整員 1 名
	9 月 11～12 日	茨城県常総市	DMAT1 チーム(医師 1 名、看護師 2 名、調整員 2 名)
	9 月 16～20 日	茨城県常総市	救護班 1 班(医師 2 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名、主事 2 名、県支部調整員 2 名、ボランティア 1 名)
ネパール地震救援事業	7 月 7 日～8 月 5 日	ネパール連邦民主共和国	看護師 1 名
赤十字国際委員会シリア 難民救援事業	3 月 12 日～	レバノン共和国	医師 1 名

#### (2) 災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

日程	訓練・研修会	会場	参加者
4 月 11 日	神奈川県災害時通信訓練 及び院内通信訓練	みなと赤十字 病院	医療情報課、総務課
5 月 11 日	神奈川県災害時通信訓練 及び院内通信訓練	みなと赤十字 病院	会計課、医療連携課
6 月 19 日	赤十字救護班主事研修会 BASIC(救護班主事コース)	日赤神奈川県 支部	心理判定員 1 名、臨床検査技師 1 名、 臨床放射線技師 2 名、薬剤師 1 名、理 学療法士 2 名、事務系職員 10 名
6 月 11 日	神奈川県災害時通信訓練 及び院内通信訓練	みなと赤十字 病院	施設課、医療安全課
6 月 26 日	レベルⅡ災害救護コース研 修会	みなと赤十字 病院	看護師 66 名
7 月 13 日	神奈川県災害時通信訓練 及び院内通信訓練	みなと赤十字 病院	総務課
7 月 13 日	救急車・トラック等運転技術 研修会	伊勢原自動車 学校	理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、事 務系職員 2 名
7 月 22 日	EMIS研修	みなと赤十字 病院	事務系職員 5 名
8 月 11 日	神奈川県災害時通信訓練 及び院内通信訓練	みなと赤十字 病院	調度課、健診課

8月14日	帰国者・接触者外来対応訓練、テント設営訓練	みなと赤十字病院	職員 40名
8月30日	九都県市合同防災訓練(川崎会場)	中央卸売市場 北部市場	救護班 1班
8月31日	レベルⅡ災害救護コース研修会	みなと赤十字病院	看護師 65名
9月1日	政府大規模地震時医療活動訓練	みなと赤十字病院他	医師 2名、事務系職員 8名
9月6日	九都県市総合防災訓練(横浜会場)	山下公園	救護班 1班
9月19-21日	全国救護班研修	日本赤十字社 本社	医師 1名、看護師 3名、事務系職員 1名
10月7日	レベルⅡ災害救護コース研修会	みなと赤十字病院	看護師 63名
10月13日	日赤神奈川県支部救護班要員教育訓練Ⅰ	日赤神奈川県支部	医師 1名、看護師 3名、薬剤師 1名、作業療法士 1名、事務系職員 1名
10月13日	神奈川県災害時通信訓練及び院内通信訓練	みなと赤十字病院	総務課
10月15日	航空機事故対処総合訓練	東京国際空港	救護班 1班
10月20-21日	日赤神奈川県支部救護班要員教育訓練Ⅱ	いこいの村あしがら	医師 1名、看護師 3名、薬剤師 1名、作業療法士 1名、事務系職員 1名
11月11日	神奈川県災害時通信訓練及び院内通信訓練	みなと赤十字病院	施設課、医療安全課
11月12-20日	救護看護師養成研修	日赤神奈川県支部	看護師 13名
11月13日	神奈川県災害時情報伝達訓練 兼 EMIS研修	みなと赤十字病院	事務系職員 18名
11月14日	神奈川県災害時情報伝達訓練 兼 EMIS研修	みなと赤十字病院	事務系職員 10名
12月11日	神奈川県災害時通信訓練及び院内通信訓練	みなと赤十字病院	会計課、医療連携課
12月12日	総合防災訓練	みなと赤十字病院	職員 165名、ボランティア 52名
12月13-14日	神奈川 DMAT-L 隊員養成研修会	神奈川県消防学校	医師 1名、看護師 2名、事務系職員 2名
12月14-15日	海上保安庁・日赤神奈川県支部大規模海難・災害対応訓練	巡視船いず、横浜防災基地他	医師 3名、看護師 3名、事務系職員 4名
1月12日	神奈川県災害時通信訓練及び院内通信訓練	みなと赤十字病院	調度課、健診課
1月25日	中区・磯子区エリアDIG訓練	みなと赤十字	看護師 6名、院外参加者 18名



		病院	
2月5日	救護員対象こころのケア研修会	日赤神奈川県支部	看護師 13名、臨床検査技師 1名、事務系職員 2名
2月6-7日	DMAT技能維持研修	内閣府立川災害対策本部予備施設	看護師 1名
2月12日	神奈川県災害時通信訓練及び院内通信訓練	みなと赤十字病院	総務課
2月17日	赤十字救護班主事研修会ADVANCEコース	日赤神奈川県支部	薬剤師 2名、事務系職員 1名
3月7-8日	DMAT技能維持研修	内閣府立川災害対策本部予備施設	看護師 2名
3月11日	神奈川県災害時通信訓練及び院内通信訓練	みなと赤十字病院	外来業務課、入院業務課
3月18-19日	神奈川DMAT-L隊員養成研修	神奈川県消防学校	医師 2名、看護師 2名、事務系職員 1名
3月21日	DMORT養成研修会	兵庫県災害医療センター	看護師 1名
3月24日	横浜救急医療チーム隊員養成研修	横浜市救急救命士養成所	医師 1名、看護師 1名

### (3) 救護体制及び主要資機材

常備救護班7班、神奈川DMAT 1チーム、日本DMAT 隊員9名（医師4名、看護師3名、業務調整員2名）、神奈川DMAT-L 2チーム、神奈川DMAT-L 隊員13名（医師3名、看護師6名、業務調整員4名）、YMAT 1チーム、救急車2台、ドクターカー1台、救護班用医療セット1式、DMAT標準医療資機材1式、YMAT資機材1式、日赤業務無線機等22台、衛星電話1台（庁舎設置）、衛星携帯電話2台（可搬型1台、救急車積載1台）、デジタル個人線量計28台、簡易ベッド540台、NBC災害除染セット1式、ドラッシュテント1式、エアーテント1式、イージーアップテント2式、発動発電機7台、災害用トイレ2式、ライフジャケット10着、患者用非常食3日分、職員用非常食3日分

## 2 成果

平成27年度は連携機関の防災訓練、研修への参加を目標としていたが、災害時の協定に基づいて平成24年度から実施している横浜海上保安部との合同訓練では、海上で救助された傷病者をヘリで当院へ搬送したり、巡視船いずに宿泊して海上進出訓練を実施するなど、今までの訓練の実績を踏まえて、より高度な訓練を実施することができた。

救護活動では、9月に発生した台風18号等大雨災害に対し、救護班、DMATを茨城県常総市へ派遣した他、神奈川県庁にも職員を派遣して対応

した。

また、国際救援活動に関する研修にも取り組んでいるが、医師を赤十字国際委員会シリア難民救援事業（レバノン共和国）、看護師をネパール地震救援事業（ネパール連邦共和国）へ開院以来初となる国際救援活動にも職員を派遣した。

救護体制については、日本DMAT研修には毎年申し込んでいるが、平成27年度も選考から外れ受講には至らなかった。神奈川DMAT-L養成講習は受講することができ、2チーム体制となった。また、3月には横浜救急医療チーム（YMAT）を編成する緊急医療協力病院の認定を受け、YMATを編成した。

### 3 課題

平成27年度から、横浜市災害時透析施設ネットワーク連絡会や横浜救急医療チーム（YMAT）が開始されたこともあり、災害時に病院の機能を発揮して地域の災害医療の貢献できるよう、地域との連携をより深めていきたい。

## 2-10 市民の健康危機への対応

### 1 データ

#### 横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
開催日	第 8 回 7 月 9 日 第 9 回 3 月 27 日	第 10 回 9 月 11 日 第 11 回 11 月 25 日 第 12 回 3 月 24 日	第 13 回 9 月 8 日 第 14 回 3 月 22 日

### 2 成果

- ・横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会に出席。
- ・新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、他病院の訓練を視察し情報共有。また、8月14日には当院独自の訓練も行った。
- ・抗インフルエンザ薬の備蓄に関し、横浜市との申し合わせにより、備蓄薬のほとんど（タミフルおよびリレンザすべて）を薬局備蓄へと移行した。

### 3 課題

横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者協議会等と連携して、資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進めるとともに、帰国者接触者外来開設の準備を進める。

### **3 指定管理者独自の取組み**

## 3-1 患者支援

### 1 主旨

制度や政策の大きな変換期において急性期病院で患者が納得、安心して病院を利用できるように、入院外来等さまざまな場で説明責任を果たすこと、患者支援することの必要性を、患者満足度調査結果等で見出したため取り組むこととした。取り組みの柱は退院支援と入院支援である。この項では入院支援センターの取り組みを報告する。

### 2 成果

多職種で構成した入院支援センターワーキングを平成26年度からスタートし、支援の枠組みやその範囲、それに基づく各職種の業務の洗い出しを行い、患者にとって不足や不安のない入院への準備になるように整備した。外科の腹腔鏡下胆のう摘出術より開始し、CVポート挿入大腸化学療法へと拡大していった。さらに消化器内視鏡治療や泌尿器科手術、呼吸器内科検査でも検証を行った。

おもにセンターに係わる医師（診療科・麻酔科）、看護師、薬剤師、事務の業務を整理し、ピットホールや重複のないようにマニュアル化し、質の保証をした。この中で、最も医療の質を上げたのが薬剤師であった。入院決定時の服薬確認や指導、中止薬や入院後の服薬等を早期にしっかり関われることは、医療安全や確実な医療提供という面でもとても重要とわかった。

これから入院支援センターの対象患者を拡大するにあたり、雛形となるマニュアルが完成できた。外科系や内科系いずれであっても、ほとんどの予定入院に対応できるような雛形となった。それは、患者支援を標準化できると同時に、外来における各診療科、各外来ブースのローカルルールを排し、どの職種も整然と働きやすい業務として整理できることが期待できる。

また、限られたスペースを有効活用できるように、試行段階から患者のプライバシーを守った入院支援センターの環境の整備にも取り組んだ。

### 3 課題

- ・入院前の麻酔科診察は麻酔科医師の人員の関係で制約がある。ハイリスク患者の麻酔科診察を中心に行うが、ニーズの拡大と共に枠の拡大が求められる。
- ・入院支援センターの対象患者の拡大と新たな各職種の教育が必要である。組織化し、中心者のもとで議論しながら拡充計画や教育計画を進める。

## 3-2 ハートセンター

### 1 概要

ハートセンターは、循環器内科と心臓血管外科の2診療科で構成され、患者の疾患、病状に応じた最適な循環器診療を提供することを基本方針としている。循環器内科・心臓血管外科・コメディカルの垣根を取り払い、ハートチームで循環器治療に精通した医師・看護師・臨床検査技師・臨床工学師らの連携を密にとり、柔軟かつ的確な治療方針決定が可能となり、医療の効率化と安全性向上が実現する。

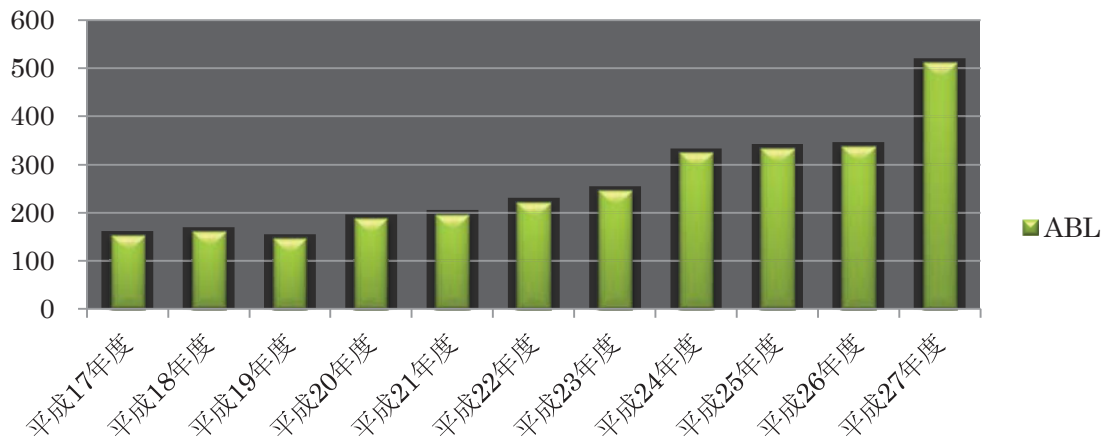
夜間も常時院内に循環器担当医が待機しており、虚血症心疾患(狭心症、心筋梗塞)、心臓弁膜症や諸々の心筋疾患、そして心不全、不整脈ならびに大動脈や末梢動静脈疾患と、循環器疾患の診断・治療全般を扱っている。循環器系救急疾患では、ICU・CCU・血管撮影室(心臓カテーテル室)にて緊急インターベンションを含め心臓血管外科との共同で365日24時間万全の体制で対応している。

### 2 実績・成果

#### 循環器内科

	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度
入院患者数	1,740	1,686	1,633
心臓カテーテル検査	641	616	619
経皮的冠動脈形成術	314	301	268
カテーテルアブレーション	333	337	511
ペースメーカー植え込み	140	124	137
ICD 植え込み	56	32	35
心臓再同期療法(CRT)			

### カテーテルアブレーション

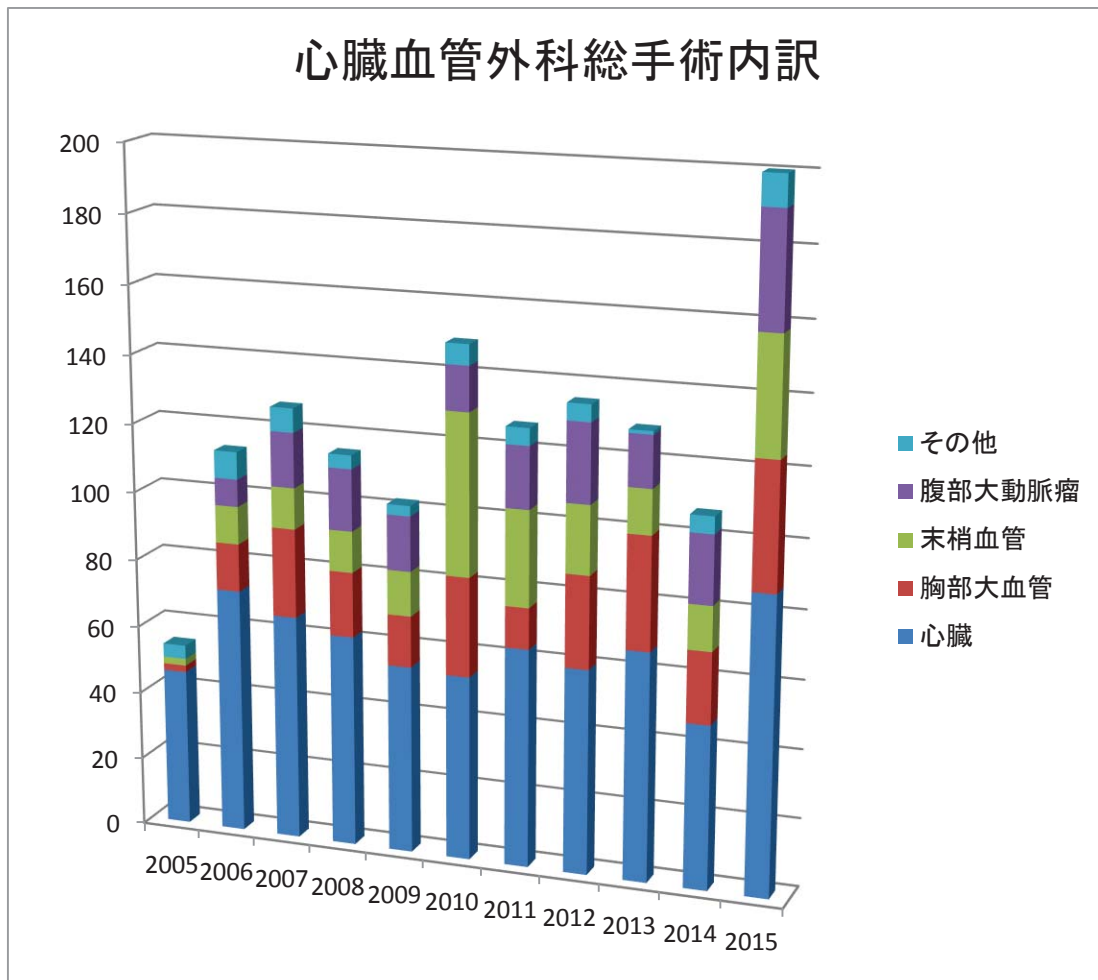


心臓病の大きな柱である、狭心症や心筋梗塞症などの「虚血性心疾患」と、「不整脈」とをバランスよく診療できる施設は県内は勿論、全国的にも数少ない。特に不整脈の根治療法である「カテーテルアブレーション」は、本邦において第一例目を成功した後、全国から多くの患者さんがこの治療を受けに訪れ、特に他施設において不成功に終わった例などの難渋例を多く手掛け、成功させるという実績を重ねてきた。

### 心臓血管外科

		2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度	2015年度 平成27年度
入院患者数		91	104	175
総手術件数		129	107	200
心臓手術件数		100	69	124
内訳 (延べ数)	冠動脈バイパス	25	15	40
	弁膜症	40	33	38
	胸部大動脈(ステント)	33(14)	21(8)	37(11)
	腹部大動脈(ステント)	15(11)	20(15)	33(19)
	末梢血管・その他	14	18	35

## 心臓血管外科総手術内訳



2014 年末に新チームとなり、緊急手術・急患を断らない医療の充実をはかり、急性期病院としての役割を果たしている。チーム医療を推進し、ハートセンターの本格始動や他科との密接な連携を行うことで安全で質の高い医療の提供している。また心臓血管外科のない急性期病院との連携、近隣の医院・クリニックとの連携し基幹病院としての役割を果たしている。

### 3 課題

今後は、高齢化に伴い心臓・大血管疾患の患者の増加が見込まれ、高齢でリスクの高い患者に対して、単に難しい病気を治すというだけでなく、身体の負担をできるだけ軽減し、そのうえでさらに効果的な治療を行うという低侵襲医療を目指す時代となっている。

ハートセンターにおける心臓血管低侵襲センターの設立を行う必要があり、その活動の場となるハイブリッド手術室の建設が急務である。ハイブリッド手術室の完成により、年々増加する弁膜症疾患に対して、経カテーテル的大動脈弁



植え込み術(TAVI)の実施施設の認定を得て治療することが可能となる。

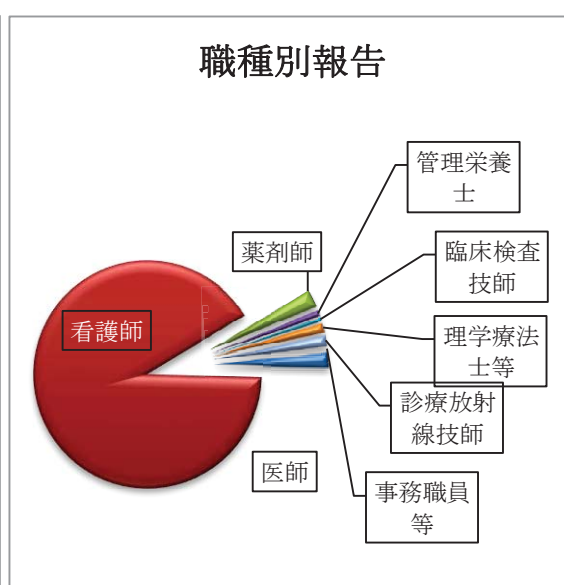
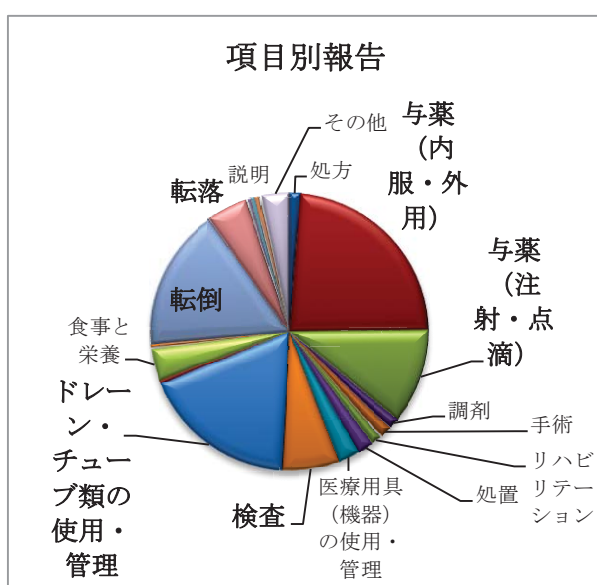
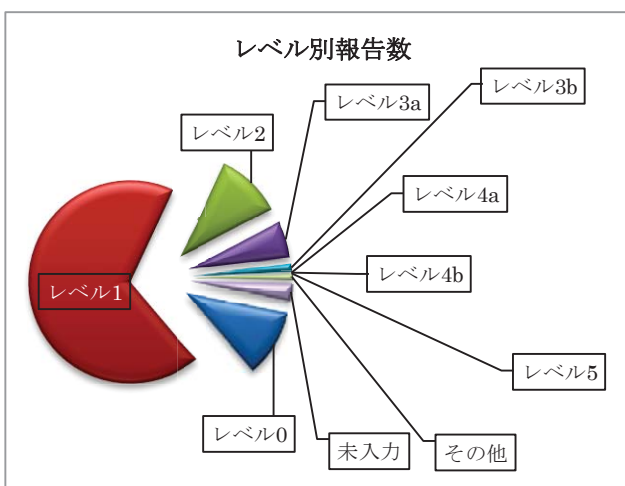
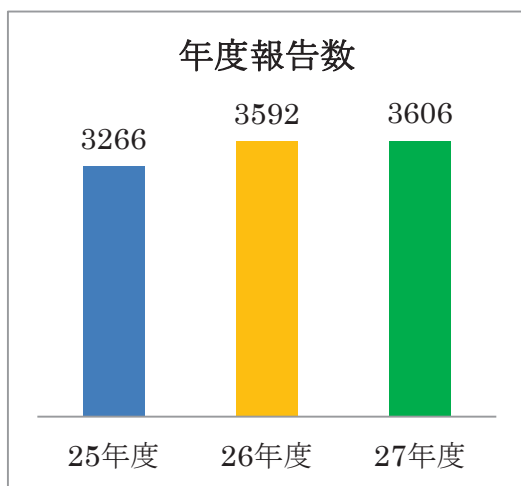
またハイブリッド手術室を利用し、高度な血管内治療の実施も容易となり、ハートセンターよる低侵襲治療である TAVI、大動脈ステント内挿術、ペースメーカー植え込み、ICD 植え込み、カテーテルアブレーション、カテーテル治療、開心術が可能となる。

## **4 地域医療の質の向上に 向けた取組み**

## 4-1 医療における安全管理(安全)

### 1 データ

- ・平成 27 年度インシデントレポート報告件数は、3606 件。
- ・平成 27 年度全職員対象安全研修会は、第 1 回は 6 月、第 2 回は職種別に 12 月と 2 月に開催した。参加率は、それぞれ 87%と 84%。
- ・医療職対象医薬品医療機器安全講演会を 2 月に開催した。出席者は、230 人。
- ・院内救急サポートチーム(MEST)と共催し、1 月にコードブルーメディカルラリーを開催した。
- ・RM 対象の安全研修会を全 8 回開催した。また、RM 医師対象の安全研修会を開催した。
- ・医療安全管理委員会と RM 委員会は、毎月開催した。
- ・RM 委員会の中で、医療機器安全管理者によるミニレクチャーを適宜開催した。



・内視鏡検査・治療について

- (1) 安全管理に係る委員会等の活動状況として、H23 年度より内視鏡運営委員会開催を毎月定期開催している。また、H27 年度は「内視鏡検査・治療における患者管理とその体制」について検討するためのワーキングチーム活動を開始した。
- (2) 2.27 年度の重症症例についての報告件数は、3 件であった（H27 年 10 月 2 件、H28 年 3 月 1 件）。また重症症例については、内視鏡運営委員会においても報告、検討している。
- (3) 平成 27 年度研修実績（開催・参加状況）
  - ①7 月 16 日 ②7 月 24 日  
モニター操作シミュレーション  
参加人数 医師 16 名 看護師 21 名 ME1 名 事務 4 名
  - ③9 月 4 日開催  
事例：院内急変対応システム要請となった症例 事例：院内急変対応  
参加人数 医師 8 名 看護師 12 名  
（対象者：医師 10 名 看護師 23 名）
  - ④11 月 13 日開催  
事例：「ERCP 施行後の急変時の対応」  
参加人数 医師 9 名 看護師 22 名 放射線技師 3 名  
（対象者：医師 10 名 看護師 23 名）
  - ⑤平成 28 年 2 月 17 日開催  
事例：「ERCP 穿孔事例について（ケースカンファレンス）」  
参加人数：医師 9 名 看護師 4 名（対象者と同）

## 2 成果

- (1) 職員への教育計画を予定通り実施した。
- (2) 安全管理マニュアルを平成 27 年 10 月に改訂した。
- (3) 安全推進室週間ミーティングを継続的に実施した。
- (4) 安全ラウンドを実施し、結果をフィードバックできた。
- (5) レベル 3 b 以上の事例が減少した。
- (6) 身体に影響の大きいチューブ抜去時の対策が周知され実施できた。
- (7) 平成 27 年 6 月に患者管理とその体制として「内視鏡検査・治療における患者管理とその体制」を作成した。内容は、モニターを装着しなければならない患者の管理、内視鏡における録画、同意書について、内視鏡検査実施時の抑制、急変時の患者の管理、重症患者の管理について明文化した。また、「重症症例マニュアル」を策定し重症の基準を定めた。
- (8) 平成 27 年 7 月 22 日（水）市立 3 病院医療安全報告会において、安全管理の委員会の活動状況、安全管理研修等の開催状況、インシデント報告の状況等を報告し、共有した。

(9) 平成 27 年 9 月の公表事案に対する改善への取組みについて

ア 重篤な状態の患者に対する体制

平成 27 年 6 月に「内視鏡重症症例マニュアル」を策定し重症の基準を定め、呼吸・循環動態の管理に専念する医師を別に配置した。平成 27 年度中、内視鏡検査・処置 5673 件のうち、マニュアル策定後の重症症例（消化管出血）は 3 例あり、いずれもマニュアルに基づいた患者管理や検査を行っており、無事終了した。

イ 検査・処置中の全身状態モニター機器の整備

内視鏡室の患者監視モニターのバイタルの数値が自動的に電子カルテに載る生体情報モニタリングシステムを平成 27 年 7 月に内視鏡室に導入した。（モニター実績：平成 27 年度で 850 件。）これにより、重症症例の処置中に、記録に手を取られていた看護師が、患者の看護により一層集中できるようになった。

ウ 予期しない事態が起こった場合の当直医への報告体制

内視鏡処置で予期しない事態が起こった場合には、上級医が確認した上で判断し、その状況と判断を当直医に報告する体制を構築した。また、策定した「内視鏡重症症例マニュアル」において、

- ①上下部内視鏡検査及び治療による偶発症に対し緊急内視鏡を施行する場合、
- ②EST 後出血に対する緊急内視鏡を施行する場合、
- ③重症胆石性膵炎の場合、
- ④重症急性胆管炎の場合には、上級医 2 人の監督下で行うことを明記した。

エ 教育体制の構築

安全な医療を実践するため、内視鏡室に関係する全職種に対して内視鏡処置の動画記録を用いた教育体制を構築した。また、医療機能の更なる向上を目標とし、撮影した動画を用いて内視鏡室に関係する職員を対象とした勉強会を定期的で開催した。

【教育訓練の実施状況】

- ①7 月 16 日 ②7 月 24 日

モニター操作シミュレーション

参加人数 医師 16 名 看護師 21 名 ME1 名 事務 4 名

- ③9 月 4 日開催

事例：院内急変対応システム要請となった症例 事例：院内急変対応

参加人数 医師 8 名 看護師 12 名

（対象者：医師 10 名 看護師 23 名）

- ④11 月 13 日開催

事例：「ERCP 施行後の急変時の対応」

参加人数 医師 9 名 看護師 22 名 放射線技師 3 名

（対象者：医師 10 名 看護師 23 名）

⑤平成 28 年 2 月 17 日開催

事例：「ERCP 穿孔事例について（ケースカンファレンス）」

参加人数：医師 9 名 看護師 4 名（対象者と同）

(10) 安全文化を醸成するための取り組み

職員に対し公表事例を周知し、安全への取り組みに十分留意することを伝えた。また、職員対象の研修会等を開催し、安全な技術や知識の習得に努め、安全文化の醸成のため組織全体で継続的に取り組んだ。

(11) 内視鏡実施件数

内視鏡実施件数	26 年度	27 年度
上部消化管内視鏡	3,636	3,615
下部消化管内視鏡	1,885	2,295
気管支鏡	215	277
ERCP	464	358
合計	6,200	6,545

### 3 課題

上述のとおり安全文化については醸成されつつある。平成 28 年度は、4 月に着任した医師 6 名へ、内視鏡検査・治療における「内視鏡検査・治療における患者管理とその体制」、「重症症例マニュアル」について伝達講習した。6 月には、内視鏡関係全医師・看護師・放射線技師へ、急変時対応シュミレーショントレーニングを開催する予定である。また、ワーキングチーム活動では、内視鏡室における鎮静剤使用基準を検討し、看護師においては薬剤を使用した鎮静中の副作用への対応能力を養う講習会への参加を予定している。今後も、安全な内視鏡検査・治療についてより一層強化していく。

また、報告数の上位を占めるチューブ抜去、薬剤エラー、転倒・転落については、継続して取り組んでいく。

## 4-2 医療における安全管理（感染）

### 1 データ

#### (1) 平成 27 年度研修会実績

- ・第 1 回全職員対象感染講演会は、6 月と 9 月に開催した。参加率はそれぞれ 89%と 83%。
- ・医療職対象感染講演会「抗菌薬の適正使用と当院の取り組み」を 11 月に開催した。出席者は、188 人。
- ・みなとセミナー感染講演会「耐性菌時代の抗菌薬適正使用」を 1 月に開催した。院外出席者も含め、出席者は 70 人。

### 2 成果

- (1) 感染対策マニュアルを平成 28 年 3 月に改訂した。
- (2) 研修会を参加のため複数回開催や時間帯を変えて開催を行い、出席率が約 86%に上昇した。
- (3) ICT による定期的な院内ラウンドを実施し、問題点を現場へフィードバックした。
- (4) サーベイランスによるアウトブレイクの特定
  - ・BSI サーベイランス、SSI サーベイランス継続。JANIS サーベイランス：検査部門・全入院患者部門継続。MRSA 検出患者サーベイランス継続。特定病棟での MRSA 検出数増加に対してはラウンド等行い接触感染防止策の再確認を行った。サーベイランスではアウトブレイクは特定されなかった。
- (5) 抗生物質の適正使用：特定抗生物質使用届け後のフォロー  
年度の特定抗菌薬の届出率は 64%であった。また、1 週間以上の長期使用患者に対しては主治医と部長に適正使用を促した。起炎菌や感染症名から、適切な使用と考えられる場合には ICD から主治医に適正使用を促した。
- (6) 帰国者・接触者外来シミュレーション実施。
- (7) 感染事例への具体的な対応・指示、関連機関との連携を図った。
- (8) 感染防止対策加算 1 に則り他施設とのカンファレンスを 4 回開催した。  
感染対策地域連携加算に則り他施設と相互ラウンドを実施した。他病院の感染防止対策活動の一端を知る良い機会となった。

### 3 課題

- (1) 標準予防策・感染経路別予防策の徹底
- (2) サーベイランスによるアウトブレイクの特定：BSI、SSI、JANIS、MRSA
- (3) 抗菌薬の適正使用：特定抗菌薬使用後の届け後のフォロー
- (4) 針刺し防止：安全機能付き器具の使用推進
- (5) リンクナースの活動支援
- (6) 地域連携への取り組み
- (7) 流行性ウイルス疾患抗体価検査の推奨

### 4-3 医療倫理に基づく医療の提供

#### 1 データ

平成25年度・平成26年度 医療倫理委員会実績

	平成25年度	平成26年度
承認件数	36件	56件
開催回数 開催日等 (参加人数)	第1回 6月25日 (8人)	第1回 5月27日 (12人)
	第2回 8月7日 (7人)	第2回 7月7日 (11人)
	第3回 10月16日 (7人)	第3回 9月5日 (10人)
	第4回 11月11日 (10人)	第4回 11月7日 (11人)
	第5回 12月11日 (10人)	第5回 1月9日 (10人)
	第6回 1月28日 (8人)	第6回 3月12日 (10人)
	第7回 3月31日 (9人)	

平成27年度医療倫理委員会実績 承認件数62件

開催日 (参加人数)	議題	結果
5月27日 (10人)	ペクチン含有消化態濃厚流動食品の臨床的有用性および安全性の検討	承認
	脆弱性骨折の二次予防を目指した、橈骨遠位端骨折患者の体幹バランスへの介入	承認
	Kinect を用いた乳房形態の3次元データベースの構築	承認
	BreastQ を用いた乳房再建患者における術後 QOL 評価	承認
	食物アレルギー児をもつ保護者の栄養相談の要望調査	承認
	当院における長期人工呼吸患者の実態調査	承認
	アナフィラキシー治療症例の多施設集積調査	保留
	乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験	承認
	気管支喘息患児におけるコントロール良好と不良でのMostGraphによる気道可逆性試験の比較検討	承認
	病院外心停止に対する包括的治療体制の構築に関する研究	承認
	冠動脈の血管緊張の程度とアセチルコリンに対する反応の午前・午後での比較	承認
	RSV 感染症に対する臨床免疫評価と試作ワクチンの分析評価を目的とした小児 RSV 感染症患者対象の臨床研究 →実施計画書の一部及び同意説明文書の変更	承認
喘息の診断における好酸球由来タンパク質測定の臨床的有用性評価 →実施計画書の一部及び同意説明文書の変更	承認	



開催日	議題	結果
7月22日 (9人)	アナフィラキシー治療症例の多施設集積調査	承認
	微量摂取を目的とした短期入院による急速特異的経口耐性誘導	承認
	ステロイド性骨粗鬆症に対するミノドロン酸水和物の臨床的有用性に関する検討 —m-GLORIA—	却下
	過去10年間における食物アレルギーの即時型反応により救急外来を受診した小児の推移についての検討	承認
	アレルギー性鼻炎症状の気管支喘息患児にあたえる影響	承認
	神奈川県循環器救急患者の現状と予後に関する研究(神奈川県循環器救急Registry)	承認
	ホスピス緩和ケアにおける口腔ケアの有効な実践—地域医療における口腔ケアの向上—	承認
	Ethicus II : The international observational study on end-of-life care in the ICU (ICUにおける終末期医療に関する観察研究)	承認
	急速特異的経口耐性誘導の有効性の検討 →分担研究医師の変更	承認
	RSV感染症に対する臨床免疫評価と試作ワクチンの分析評価を目的とした小児RSV感染症患者対象の臨床研究 →分担研究医師の変更	承認
	アナフィラキシー治療症例の多施設集積調査 →分担研究医師の変更	承認
	乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験 →分担研究医師の変更	承認
	気管支喘息患児におけるコントロール良好と不良でのMostGraphによる気道可逆性試験の比較検討 →分担研究医師の変更	承認
	健常成人におけるモストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値に関する研究 →実施計画書の一部変更	承認
	喘息の診断における血清中または血漿中EDNとECP測定の臨床的有用性評価 →実施計画書の一部変更	承認
脂肪幹細胞付加脂肪移植における脂肪の性状と生着に関する研究 →分担研究医師の変更	承認	

開催日	議題	結果
9月14日 (10人)	トリプルネガティブ乳癌の BRCAness 症例に対する術前化学療法 の多施設共同試験	承認
	蘇生後脳症に対する insulin-like growth factor I 補充療法に よる予後改善効果の検討	再検討
	非弁膜症性心房細動を伴う脳梗塞患者の脳内微小出血に及ぼ す抗凝固薬の影響に関する Pilot 臨床観察研究(略称:CMB-NOW) ー脳内微小出血を指標とした脳出血リスクの探索的評価ー	承認
	副腎白質ジストロフィーに対する、免疫グロブリン投与の有効性の検討	承認
	人間ドック健診受診者における採尿方法による結果の相違に関する研究	承認
	献血ルーム来訪者の健康に対する意識調査	承認
	人間ドック健診受診者における脂肪肝および腎結石と生活習 慣病・メタボリックシンドロームとの関連に関する研究	承認
	乳幼児喘息に対するフルチカゾン間欠吸入と連日吸入の増悪 抑制効果に関する多施設共同二重盲検ランダム化比較試験 →実施計画書の一部変更	承認
11月13日 (10人)	乳癌の術前・術後化学療法における発熱性好中球減少症に関す る観察研究	承認
	住居関連過敏性肺炎の原因検索と診断法の開発	承認
	夫婦における生活習慣と生活習慣病の類似性	承認
	多量飲酒の習慣がない人間ドック健診受診者における非アル コール性脂肪性肝疾患と腎結石の関連	承認
	COPDにおけるモストグラフの有用性の検討	承認
	長期間コントロールを維持した気管支喘息患児における気道 可逆性試験の検討	承認
	人間ドック健診受診者における非アルコール性脂肪性肝疾患 および腎結石と生活習慣病・メタボリックシンドロームとの関 連に関する縦断研究	承認
	非アルコール性脂肪性肝疾患と内臓脂肪型肥満における動脈 硬化との関連	承認
	周術期口腔機能管理が入院患者の誤嚥性肺炎の発症および予 後に与える効果についての多施設共同研究 →実施計画の一部、同意説明文書の変更	承認
	再発危険因子を有する Stage II 大腸癌に対する UFT/LV 療法の 臨床的有用性に関する研究 →実施計画書の一部、同意説明文書、責任医師の変更	承認
人間ドック健診受診者における採尿方法による結果の相違に 関する研究→実施計画書の一部変更	承認	

開催日	議題	結果
1月15日 (10人)	プロジェクションマッピングを用いた乳房形態の3次元評価	承認
	進行性腎細胞癌患者に対する分子標的治療の有効性及び有害事象と相関する遺伝子多型の網羅的探索	承認
	スギ花粉症が気管支喘息患児にあたえる影響	承認
	劇症1型糖尿病における急性期膵MRI所見の検討	承認
	当院における2型糖尿病患者に対する選択的SGLT-2阻害薬の臨床効果の検討	承認
	Kinectを用いた乳房形態の3次元データベースの構築 →実施計画書の一部、患者説明書の変更	承認
3月11日 (12人)	末梢性T細胞リンパ腫に対するTHP-COP-14療法の臨床第2相試験	承認
	日本集中治療医学会主催のICU入室患者登録システム事業への参画	承認
	経皮的冠動脈形成術後の急性冠症候群患者の精神状態と影響要因に関する前向きコホート研究	承認
	気管支喘息の長期管理における個別喘息予報の有用性に関する検討	承認
	アジアにおけるくすぶり型骨髄腫患者の臨床経過に関する後方視的観察研究	承認
	インスリン強化療法を導入した2型糖尿病患者のインスリン離脱可能予測因子の検討	承認
	CTによる経皮的気管切開患者の解剖学的検討	承認
	全国肺癌登録調査:2010年肺癌手術症例に対する登録研究	承認
	当院における2型糖尿病患者に対するリラグルチドとインスリン製剤使用による臨床効果の検討	承認
	ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド週1回製剤の有用性の検討 →実施計画書の一部、同意説明文書等の変更	承認
非弁膜症性心房細動を伴う脳梗塞患者の脳内微小出血に及ぼす抗凝固薬の影響に関するPilot臨床観察研究(略称:CMB-NOW) ー脳内微小出血を指標とした脳出血リスクの探索的評価ー →実施計画書、同意説明文書、その他の変更	承認	

## 2 成果

- ・計画どおり2か月に1回開催した。
- ・平成26年12月22日付で厚生労働省・文部科学省から「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が告示された。指針の「内容」および「告示によって生じる委員会運営の変更点」について協議し情報共有を図った。

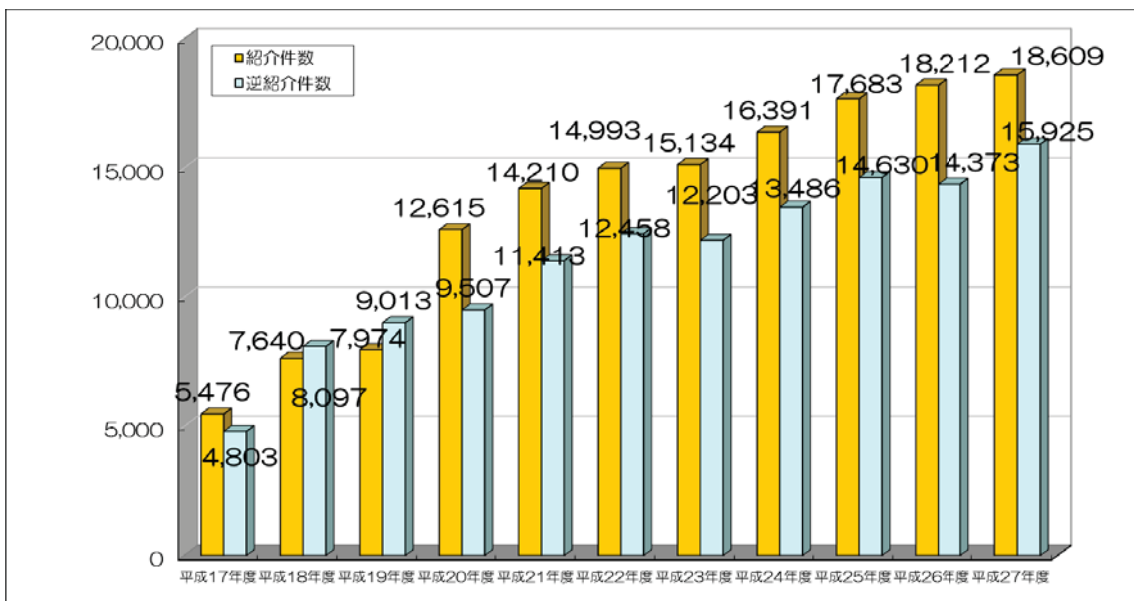
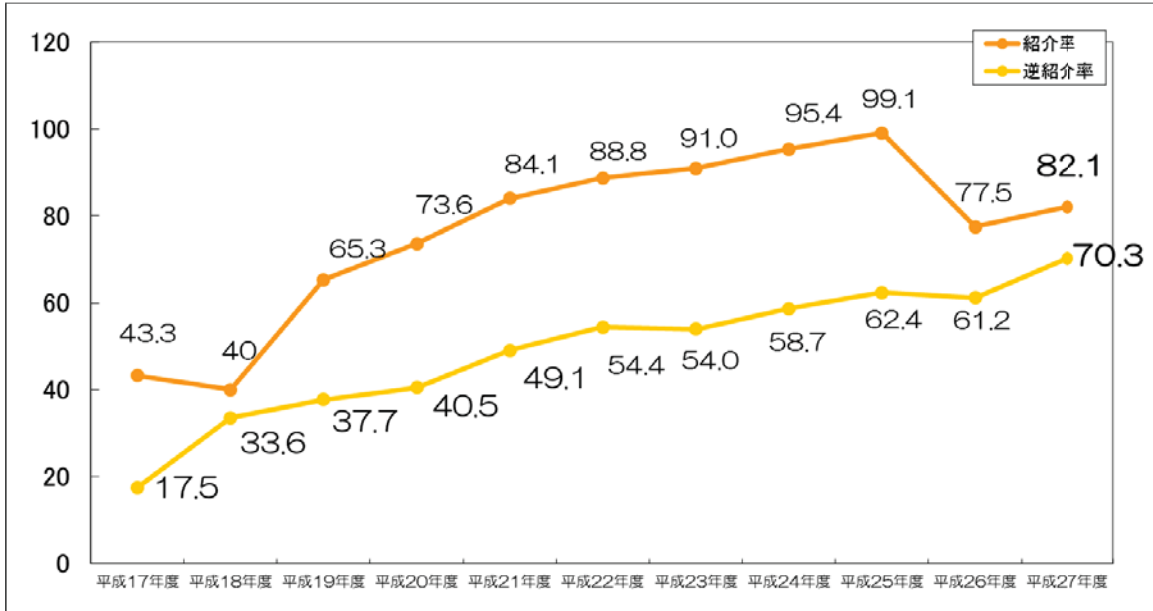
- ・ 下記のとおり、医療倫理委員会と自主臨床研究審査委員会との関係性を整理するとともに、研究を早く始めたいとの要望に対応するため迅速審査開始に向け検討を行った。
  - ① 「侵襲性なし」且つ「介入なし」の前向き研究については希望があれば、自主臨床研究審査委員会にて迅速審査にかけることができる。迅速審査で承認された案件は研究開始が認められ、承認番号も付与される。後に開催される医療倫理委員会で不承認となった場合、研究を中止し、承認番号も取り消しとなる。
  - ② その他の前向き研究は自主臨床研究審査委員会での承認後、医療倫理委員会に答申され、承認されれば研究開始・承認番号付与となる。
  - ③ 後向き研究については自主臨床研究審査委員会で承認された後、医療倫理委員会に報告され、承認されれば研究開始・承認番号付与となる。

### 3 課題

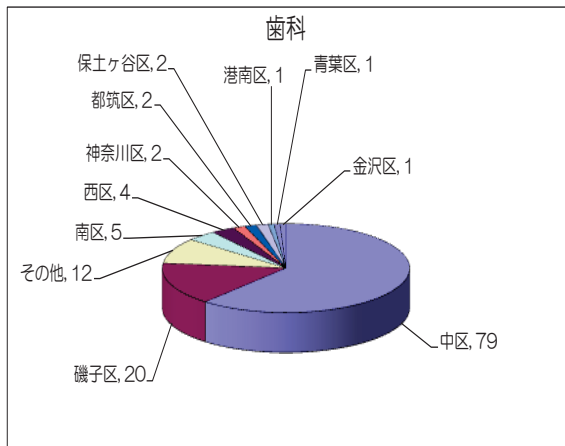
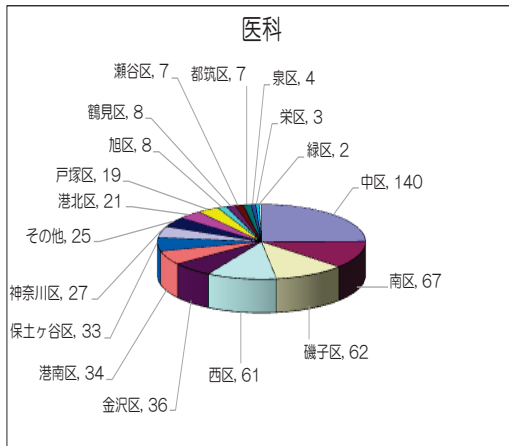
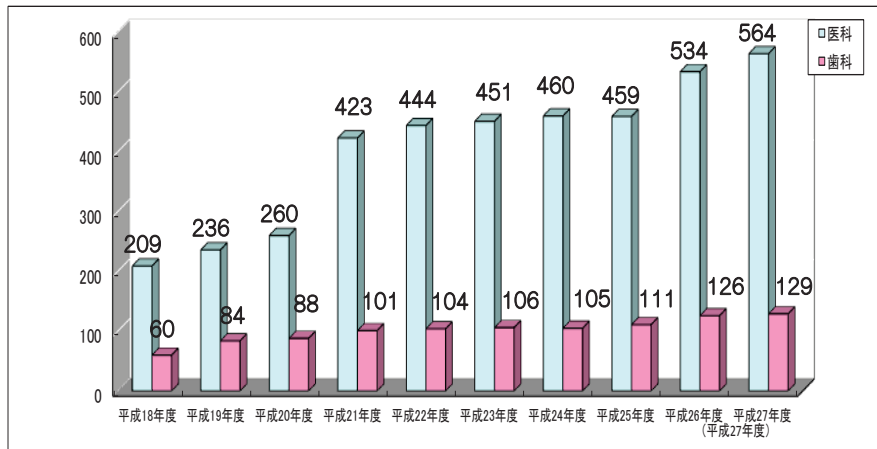
- ・ 迅速審査を行うにあたり、運用の変更が生じるため自主臨床研究審査委員会および医療倫理委員会の規定を整備する必要がある（承認の意味合いや承認番号付与のタイミングについて）。
- ・ 上記「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」にて侵襲（軽微な侵襲を除く。）を伴い、介入を行う研究について、研究責任者に対し、モニタリングや必要に応じた監査の実施を求められているので、今後も引き続き情報収集を行い、実施に向けて議論を深める。

#### 4-4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）

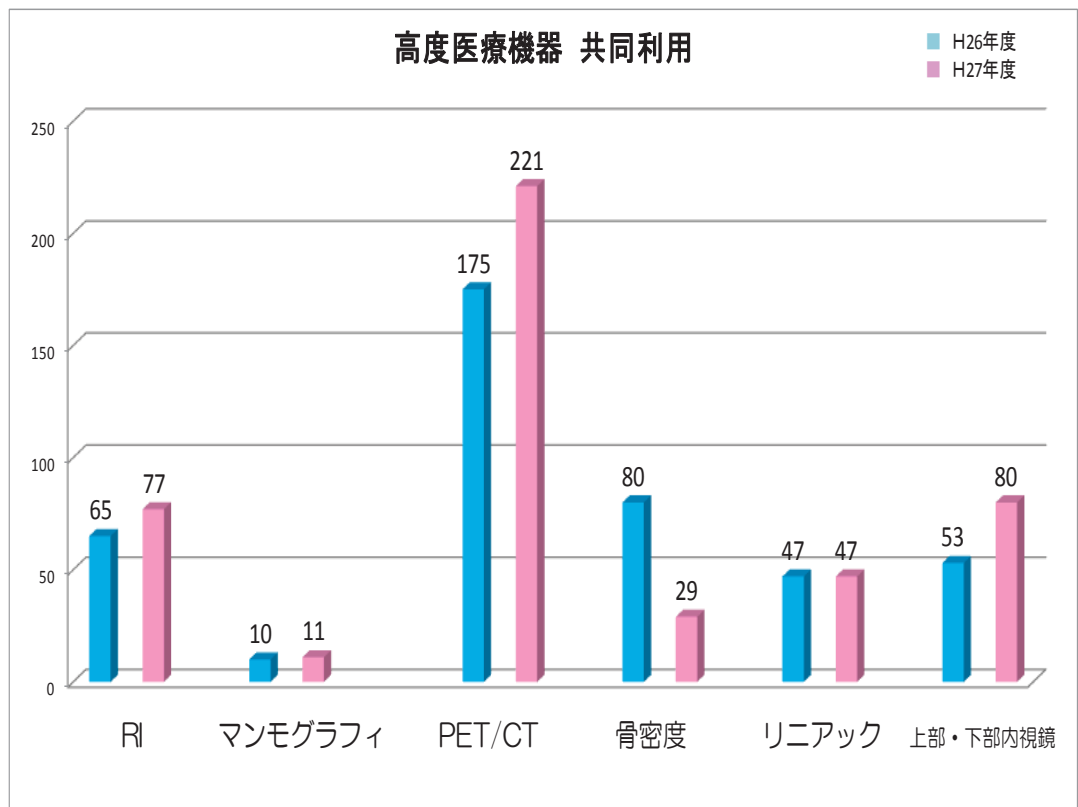
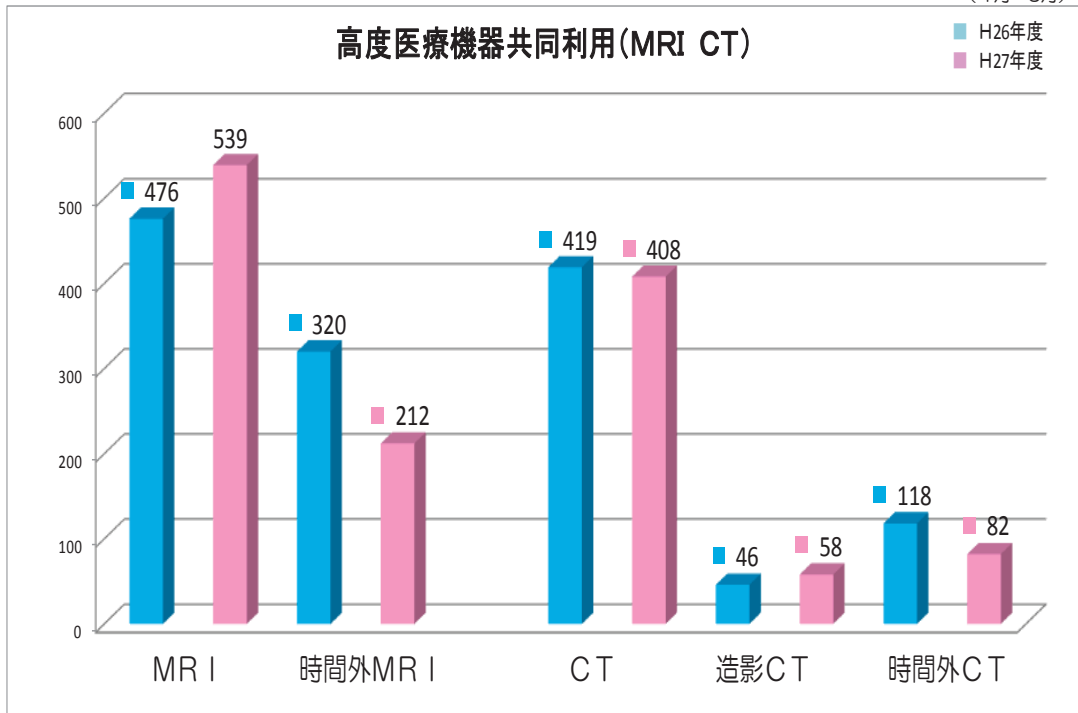
##### 1 データ



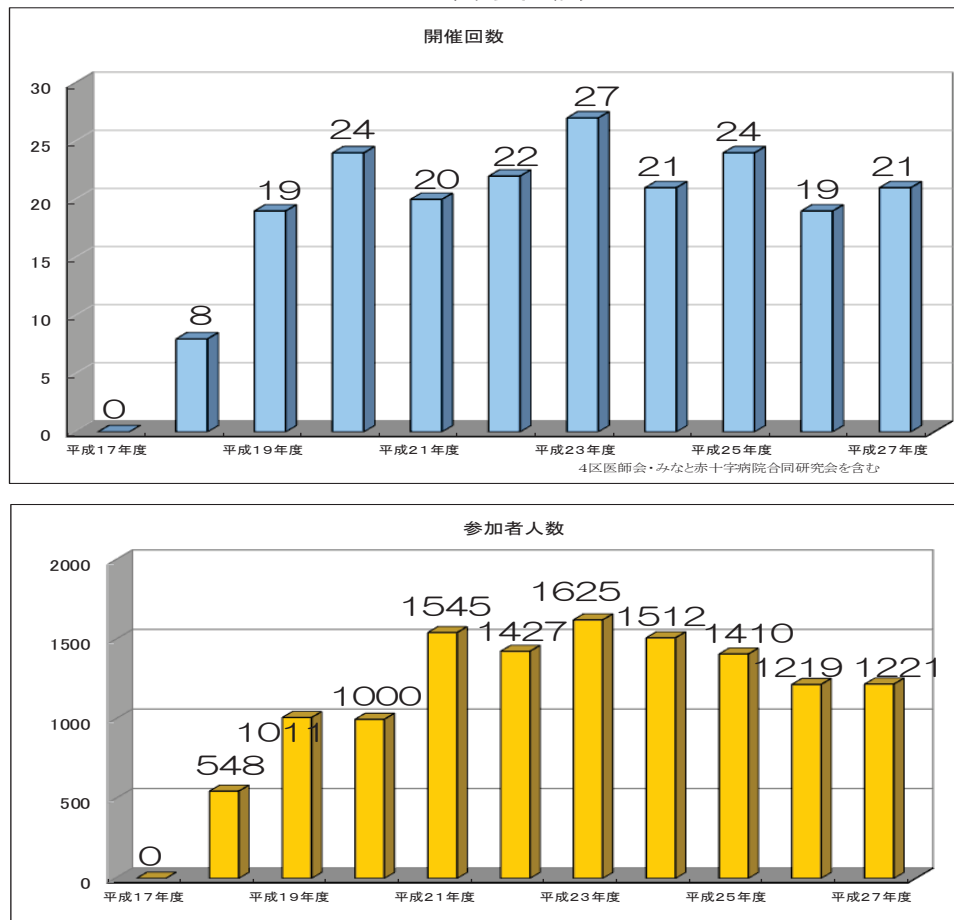
## 登録医登録状況



(4月~3月)



## 地域の医療従事者に対する研修実施状況 (年度推移)



## 2 成果

医療連携課は、医療連携センターの入口業務を担う役割であり、地域医療機関の窓口として“顔の見える連携”を心がけた。レベルの高い急性期医療を提供するため、また地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターに指定され、ますます地域の医療機関との医療機能の分担と連携を強化し、紹介・逆紹介の向上に努めた。

一方、地域医療支援病院として、近隣診療所を支援する他、近隣医師会、登録医等関係医療機関との合同研究会やセミナーを開催し、地域医療の質向上を図った。

## 3 課題

平成26年度地域医療支援病院の要件見直しがあり、紹介率の算定方法が変更されたが、地域医療支援病院の承認要件である紹介率65%、逆紹介率40%はクリアされた。

また、地域の医療従事者の研修を年21回開催し、述べ1,221名の参加者を募り地域医療の質向上に貢献してきた。

今後も、病院の運営方針である“逆紹介”を積極的に推進する。



#### 4-5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

##### 1 データ

###### <相談室業務>

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
相談件数	6825件	6422件	7162件
がん相談件数	126件	1903件	2370件

###### <算定件数>

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
退院調整加算	423件	809件	2242件
介護支援連携指導料	126件	241件	272件
退院時共同指導料2	13件	36件	99件
3者以上退院時共同指導加算	1件	8件	10件
大腿骨頸部骨折パス	42件	16件	32件
脳卒中パス	45件	57件	69件

###### <地域連携会議>

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
横浜脳卒中地域連携懇話会セミナー	第1回 2月7日	第1回 2月19日	第1回 2月20日
横浜脳卒中リハ連携研究会	第1回 7月2日 第2回 12月11日	第1回 7月2日 第2回 12月11日	第1回 7月1日 第2回 12月9日 第3回 2月7日
神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会セミナー	第1回 6月7日 第2回 12月17日	第1回 7月23日 第2回 12月17日	第1回 7月4日 第2回 12月19日
大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会	第1回 6月18日 第2回 9月27日 第3回 2月25日	第1回 6月17日 第2回 10月14日 第3回 2月24日	第1回 6月16日 第2回 10月13日 第3回 2月23日

<療養・福祉相談室 主催/共催研修>

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
みなとセミナー (年 1 回)	2 月 25 日 88 名	1 月 20 日 104 名	2 月 9 日 106 名
院外研修	0 件	0 件	かいごのWA！なかケ アマネ部会 9 月 25 日 11 月 17 日 磯子在宅医療相談室 1 月 19 日 南区在宅医療相談室 2 月 29 日  計 4 件

## 2 成果

### (1) 療養・福祉相談の実績報告 (資料①)

27年度実人数は昨年より740件増加し、新規ケースでは、入院が379件、外来は554件と933件増加した。内訳では院外関係者からの相談が大幅に増加しており、療養・福祉相談室が、地域医療・介護関係者と相談しやすい環境になってきたと考える。転帰先は、在宅が最も多いことは変わりなく、地域医療・介護関係者との連携は更に強化していく必要がある。また、包括ケア病棟への転院は13件であった。包括ケア病棟の開設が増加している中、当院では十分に活用ができていない。算定関連では、退院調整加算が1433件と大幅に増加した。27年度から病棟看護師が、早期に退院支援を患者、家族へ説明し、退院支援を宣言する役割を担った。退院支援を医療チームで実践する風土が形成され、その結果、算定件数の増加に繋がったと思われる。介護支援連携指導料は、31件、退院時合同指導料は63件増加した。地域医療・介護関係者から退院前カンファレンスを要望する声が多く、徐々に定着してきている。26年度から在宅歯科連携フローを活用しているが、3者以上退院時共同指導加算は10件と伸びなかった。地域連携パスは、脳卒中パスでは69件（前年度比12件増加）、大腿骨頸部骨折パス32件（前年度比16件増加）であった。地域連携会議では活発な意見交換や共有を図ることが出来、また、連携施設が増加したことが要因であると考えられる。

## (2) 地域関係機関との取り組み

地域関係機関との連携が不可欠であるこの部門として、様々な取り組みを行った。

- ①行政機関や在宅介護関係機関の会合への参加、「かいごのWA！中」の会合への参加、横浜市退院支援看護師の交流会への参加など、在宅療養支援に関する情報の共有を図った。
- ②横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム実務者会議や障害者自立支援協議会への参加、中区3障害一体サービス提供施設運営委員会など、障害児者に関する活動を実施した。横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムでは10件の相談があり、8件受け入れを行った。
- ③赤十字SW会や医療協SW会、委員会に参加した。
- ④精神科医療に関する活動として、合併症受入病院連絡会や精神保健業務連絡会、医事担当者会議等の参加により必要な情報収集、受入病院としての提言をした。また、精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用に向け、外部研修で四州市、他医療機関との連携を図った。
- ⑤横浜脳卒中地域連携懇談会の参加や横浜脳卒中・リハ連携研究会（Y-CIRCLE）、大腿骨頸部骨折パス合同委員会を当院で開催した。
- ⑥医師会や地域関係機関と「中区で認知症を考える会」を当院で開催した。
- ⑦横浜市リハビリテーション事業団とALS患者支援に関する連携を強化し、MSWが病院と地域を結ぶコーディネートの役割を担った。
- ⑧みたとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part9」を開催した。
- ⑨横浜市児童虐待防止医療ネットワークに毎年3回参加し、市内小児救急病棟と児童虐待防止に向けた取り組みについて情報交換を行った。

## (3) 専門職育成への取り組み

院外からは、14名の看護学生、1名の社会福祉学生の実習、神奈川県看護協会第2支部の研修生を10名、院内は看護部からクリニカルラダー「退院支援コース」の研修者を13名受け入れた。

## (4) 専門職としての研鑽

神奈川県看護協会、医療協、神奈川県MSW協会、神奈川県PSW協会やその他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、神奈川県MSW協会研修委員、神奈川県PSW協会、研修委員など、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。

- ①精神保健福祉士実習指導者講習を1名が受講し、学生の受け入れ体制を整備した。
- ②がん相談支援センター相談員研修 (1) (2) 5名 (3) 1名が受講を

し、1名が認定がん専門相談員の認定を受けた。

③エイズカウンセリング研修に2名、医療対話推進者研修に1名が受講した。

④災害関連としてDMAT・DPATの要員に必要な研修に参加した。

(5) 院内他部署、あるいは地域関係機関に向けた取り組み

例年実施しているリウマチ教室での社会福祉制度の説明会を始め、昨年度に引き続き社会労務士を招いて「がん患者の就労支援について」の研修、がんサロンでは事例を用いた介護保険制度、医療費についての勉強会を行った。

地域に向けては、新たな試みとして地域医療・介護関係機関と共催し、研修を実施し

た。

①皮膚・排泄ケア認定看護師によるケアマネ・訪問看護師などを対象にした研修

②歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、歯科衛生士によるケアマネ・訪問看護師などを対象にした研修

### 3 課題

(1) 退院支援マニュアルに沿った退院支援を病院全体で推進し、老いや病気を抱えた患者や家族に対し、包括的な支援を実施していく。

(2) 大腿骨頸部骨折地域連携パス／脳卒中地域連携パスについて運用の見直しを検討し、引き続き院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。

(3) 政策医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。

(4) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part10」を実施する。

(5) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を強化していく。

(6) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携を進める。

(7) 各区医師会 在宅医療連携室との連携を推進していく。

# 医療社会事業課 平成27年度報告書

平成27年度分  
横浜市立みなと赤十字病院

## (1)取扱人数

区分	人数	(前年度比較)
年度実人数	7162 人	+ 740
年度延人数	31283 人	+ 1,672

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	4168 人 + 379
	外来、その他	2857 人 + 554
終了ケース	7014 人	+ 866

精神科入院相談件数		件数	
		334 件	+ 23
がん相談	実件数	2370 件	+ 467
	延べ件数	6026 件	+ 1,091
	(対面)	2572 件	+ 356
	(電話)	2930 件	+ 786
	(その他)	521 件	- 50

### \*算定

退院調整加算	14日以内(340点)	1146 件	+ 978
	15日～30日(150点)	707 件	+ 380
	31日～(50点)	389 件	+ 75
介護支援連携指導料(300点)		272 件	+ 31
退院時共同指導料2(300点)		99 件	+ 63
3者以上退院時共同指導加算(2000点)		10 件	+ 2

### \*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	32 件	+ 16
脳卒中パス	69 件	+ 12

## (2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数	
医療職Ⅰ	768 件	+ 126
医療職Ⅱ	4 件	+ 1
医療職Ⅲ	2015 件	+ 97
一般職Ⅰ	127 件	+ 2
一般職Ⅱ	0 件	- 6
本人	613 件	+ 110
家族・親戚縁者	803 件	+ 108
院外関係者	2632 件	+ 512
近隣者・知人	1 件	+ 0
ソーシャルワーカー	62 件	- 17
合計	7025 件	+ 933

## (3)取扱内容

区分	実件数	
家族関係の問題	190 件	- 162
介護・療養生活上の問題	2539 件	+ 739
経済に関する問題	469 件	- 58
日常生活上の問題	299 件	- 267
就労・職場の問題	12 件	- 35
教育の問題	1 件	+ 0
医療の確保に関する問題	2727 件	+ 419
人権に関わる問題	72 件	+ 3
心理・情緒的問題	352 件	- 50
制度活用に関する問題	864 件	- 192
その他	2061 件	+ 181
合計	9586 件	+ 578

## (4)援助方法

方法		延件数	
面接	本人	8626 件	+ 854
	家族等	4597 件	+ 153
電話	本人	375 件	+ 46
	家族等	6215 件	+ 586
訪問	本人	7 件	- 30
	家族等	2 件	- 54
同行・同伴・代行		19 件	- 17
文書(電子メール、FAX含む)		2487 件	- 295
情報収集		19336 件	+ 1,163
院内協議・院内カンファレンス		21484 件	+ 621
院外協議・院外カンファレンス		17333 件	- 1,071
合同カンファレンス		565 件	+ 133
その他		39 件	- 74
合計		81085 件	+ 2,015

## (5)相談援助調整内容

内容	延件数	
家族関係に関すること	500 件	- 837
在宅介護に関すること	8958 件	+ 1,119
療養生活に関すること	11439 件	+ 180
経済的問題に関すること	1120 件	- 408
就労・職場環境に関すること	27 件	- 69
就学・教育環境に関すること	11 件	- 25
虐待・暴力・人権に関すること	215 件	- 128
受診・受療に関すること	2339 件	- 424
転院に関すること(医療機関)	10382 件	+ 642
他施設利用に関すること	2572 件	+ 389
心理・情緒的問題に関すること	626 件	- 755
他福祉関係法に関すること	652 件	- 1,151
高額療養費に関すること	291 件	- 48
その他	2931 件	+ 301
合計	42063 件	- 1,214

## (6)転帰先

区分	実件数	
一般病院	266 件	- 6
包括ケア	13 件	+ 3
回復期リハビリテーション病院	236 件	+ 27
療養型病院	53 件	- 19
精神病院	138 件	+ 20
介護老人保健施設	92 件	+ 23
特別養護老人ホーム	35 件	+ 0
有料老人ホーム	81 件	+ 7
グループホーム	8 件	+ 2
在宅	1144 件	+ 103
死亡	126 件	- 42

## (7)その他

苦情	10 件
----	------

## 4-6 市民委員会

### 1 データ

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
開催日 (出席人数)	平成 26 年 3 月 3 日 (8 名)	平成 27 年 3 月 6 日 (6 名)	平成 28 年 2 月 23 日 (9 名)

	委員氏名	役 職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 アンナ	作家 慶應義塾大学文学部教授
3	西川 哲男	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院 院長
4	向山 秀樹	横浜市中区医師会 会長
5	玉村 和巳	日本発条株式会社 代表取締役社長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	横浜市磯子区医療センター訪問看護ステーション 管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町内会長連絡協議会 会長
9	松田 史朗	横浜市立みなと赤十字病院奉仕団 団員

### 2 成果

平成 28 年 2 月 23 日に開催した平成 27 年度市民委員会では下記項目について当院の取り組みを報告した。

- ・横浜市立みなと赤十字病院のこれまでの歩みについて
- ・患者満足度調査報告について
- ・コンシェルジュ設置とその試み

当院の運営に対し有識者から意見をお聞きできる場であり、上記各報告についてだけでなく、その他当院の様々な問題点についてもご指摘をいただいている。それぞれ自部署に持ち帰り、当院の機能改善に取り組んでいる。

### 3 課題

昨年度同様、委員の方から多くのご意見をいただいた。病院運営にとって貴重なご意見ばかりであり職員間で情報共有を行いながら課題の解決にあたりたい。

## 4-7 治験・受託研究

### 1 データ

	25年度	26年度	27年度
治験実施件数	20件	26件	34件
自主臨床試験件数	36件	57件	66件
市販後調査件数	63件	70件	64件

### 2 成果

今年度は、臨床試験支援センターを設立し、治験及び自主臨床試験の事務局機能等を集約することにより業務の効率化と実施件数の拡大を図った。前年度と比較して治験実施件数では8件、自主臨床試験では9件の増加であった。

また、27年度新規治験受託件数は15件であり、その内訳は下記のとおりであった。

- ・ 弁膜症性心房細動患者対象試験1件
- ・ 活動性関節リウマチ患者対象試験1件
- ・ 高トリグリセライド血症を有する心血管リスクの高い患者を対象にした試験1件
- ・ 喘息患者対象試験6件
- ・ 急性冠症候群患者対象試験1件
- ・ 1型糖尿病患者対象試験1件
- ・ 慢性心不全患者対象試験2件
- ・ 糖尿病性末梢神経障害性疼痛患者対象試験1件
- ・ 帯状疱疹後神経痛を有する患者対象試験1件

### 3 課題

次年度は、IRBのペーパーレス化や事務局の管理業務のIT化を推進する。また、自主臨床試験の手順書を見直し、介入試験では必須であるモニタリングを実施するよう明文化する。さらに治験及び自主臨床試験に関わる医療職員の教育等の整備、実施を目標に準備を進める。一昨年度から実施している「治験セミナー」を定期化し、年2回の開催とする。



#### 4-8 患者・市民に対する相談・啓発活動

##### 1. データ

###### ○赤十字救急法短期講習会

平成25年度		平成26年度		平成27年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
9月27日	22人	7月31日	12人	7月22日	5人
10月11日	32人			12月2日	15人
				1月22日	3人
2回	54人	1回	12人	3回	23人

###### ○赤十字救急法資格継続研修会

平成25年度		平成26年度		平成27年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
なし		3月13日	3人	2月3日	6人

###### ○赤十字救急法基礎講習・救急員養成講習会

平成25年度		平成26年度		平成27年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
3月28日～ 30日	36人	3月28日～ 30日	59人	3月28日～ 30日	51人

###### ○赤十字健康生活支援講習会（短期講習会）

平成25年度		平成26年度		平成27年度	
日程	人数	日程	人数	日程	人数
8月9日	14人	8月5日	14人	8月6日	10人
10月3日	41人	10月10日	21人	10月1日	15人
2月21日	22人	10月15日	40人	1月22日	4人
		2月20日	22人	2月19日	4人
3回	77人	4回	97人	3回	33人



## 2 成果

救急法、健康生活支援講習会は例年通り実施できた。また、院内や外部にて救急法救急員養成講習に参加し資格取得して職員に対し、資格継続研修（有効期限3年）を開催。参加者も徐々に増え、救急法有資格者の確保に成果がでている。

幼児安全法講習会は、講習開催について引続き対策等を検討する。

## 3 課題

病院職員対象とした安全講習会について、多くの職員が受講できるよう有資格職員の増員も含め計画的に進めて行きたい。

また、職員だけでなく市民対象の安全講習を開催し、健康の「普及・安全」についての普及啓発にも積極的に取り組んでいきたい。

## 4-9 患者サービス

### 1 データ

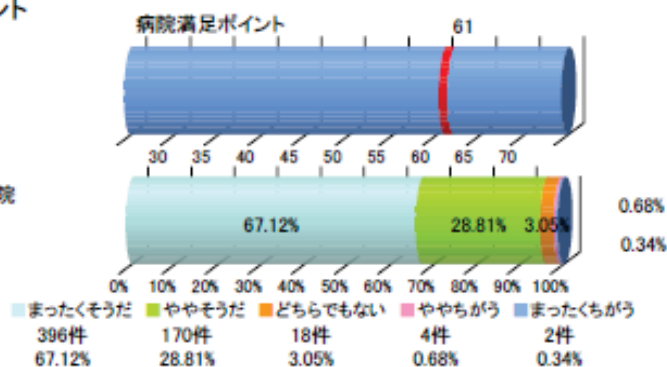
<患者満足度調査結果>

・平成25年度

【図1】入院 病院満足ポイント

評価 8  
(最高10)

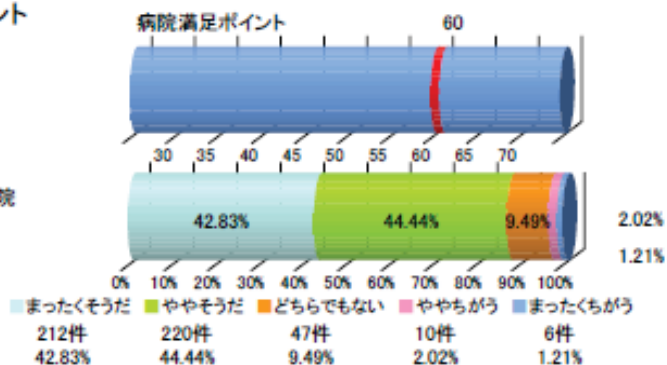
貴施設の「全体としてこの病院  
に満足している」への回答  
有効数 590件



【図2】外来 病院満足ポイント

評価 8  
(最高10)

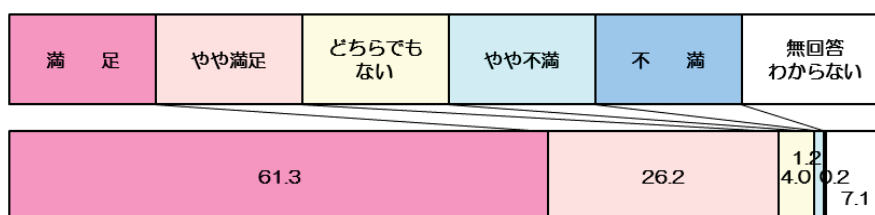
貴施設の「全体としてこの病院  
に満足している」への回答  
有効数 495件



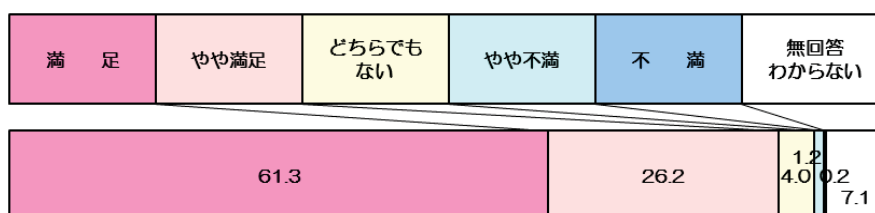
・平成26年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院 (有効回答数 504件)



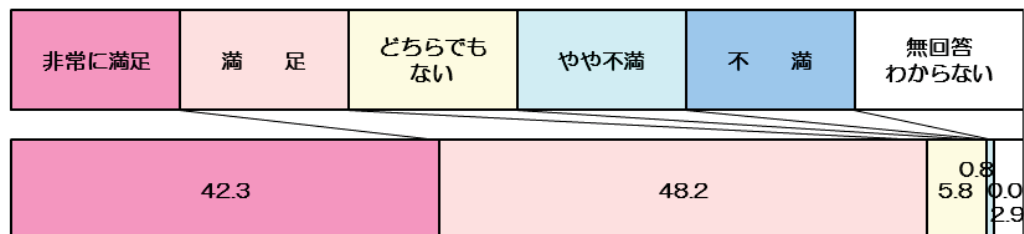
外来 (有効回答数 614件)



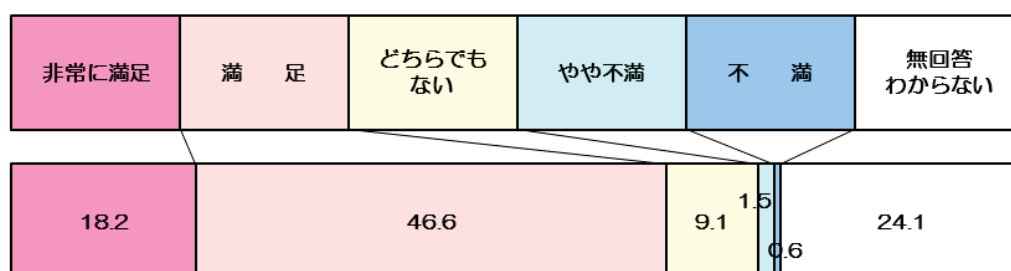
・平成27年度

【この病院に対する全体的な評価】

入院（有効回答数 515件）



外来（有効回答数 685件）



<病院ボランティア活動>

・平成26年度 病院奉仕団実施行事

- 5月2日（金） こどもの日の会
- 6月11日（水） ANAすずらんイベント
- 6月21日（土） 緩和ケア病棟「紫陽花の会」
- 7月20日（日） サマーコンサート
- 8月28日（木） 小児病棟「夏祭り会」
- 9月13日（土） 緩和ケア病棟「秋の音楽会」
- 10月18日（土） きらきらコンサート
- 12月13日（土） 緩和ケア病棟「クリスマス会」
- 12月21日（日） クリスマスコンサート
- 12月24日（水） 小児病棟「クリスマス会」
- 2月20日（金） 病院ボランティア養成講座
- 3月3日（木） 小児病棟「ひなまつり会」

・平成27年度 病院奉仕団実施行事

- 6月3日（水） ANAすずらんイベント
- 緩和ケア病棟「紫陽花の会」
- 7月7日（火） たなばた会
- 8月1日（土） サマーコンサート
- 9月19日（土） 緩和ケア病棟「秋の音楽会」
- 12月12日（土） 緩和ケア病棟「クリスマスコンサート」
- 12月20日（日） クリスマスコンサート

2月3日（水） 豆まきの会  
2月19日（金） ボランティア養成講座

・その他の活動

- ・ガーデニング：第2・4水曜日
- <作業部会>
- ・パッチワーク：第1・3金曜日
  - ・車いす清掃：第1・3金曜日
  - ・緩和ケアセンター内での活動：毎週金曜日
  - ・緩和ケアセンター「がんサロン」のサポート
  - ・病院が実施する災害訓練への協力
  - ・アレルギーセンター主催「市民セミナー」への協力

## 2 成果

サービス向上委員会については、毎年「患者満足度調査」「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者さんのご意見を分析し、患者サービス向上への取り組みを行っている。課題の総合受付表示サインは、次年度改修することが決定した。売店等の改善についても、コンビニエンスストアやカフェが入ったことにより少しずつ快適な環境づくりが整備されてきており、今年度実施した患者満足度調査においても好評をいただいている。

カスタマーリレーションセンターでは、8階特別室の改善に取り組んでいる。また、コンシェルジュがサービスの拡充を進めている。

入院支援センターでは手術や化学療法を受ける予定入院の患者の支援の質を検討し、サービスの開始をしている。

ボランティア活動は、みなと赤十字病院奉仕団の病院ボランティアの方々へ協力いただき、イベント支援や車いす清掃、敷地内のガーデニング、外来患者さんの案内を実施している。

## 3 課題

院内改修が進んでおりハード面の改善はされてきている。職員の接遇をより向上させるため院内研修を企画し実施していく。また、院内の表示については定期的に見直しを行い必要があれば改善をしていく。

病院ボランティアの方々には外来患者さんの案内などをお願いしているが、外来ホールに立っていると院内のクレーム等を受けてしまうことが稀にあるため、職員が気づき介入するなどボランティア活動をしやすい環境づくりを継続して実施して行く必要がある。また、病院ボランティア養成講座をより充実させよりスムーズな案内やボランティア活動の拡充を図りたい。

## 4-10 医療データベースの構築と情報提供

### 1 成果

- 電子カルテシステムの検討とメンテナンスの実施  
年2回のレベルアップと、年1回のバージョンアップ作業を実施し、電子カルテシステムの機能の充実を図った。
- 診療 DWH や医事 DWH を活用し、統計データの作成、看護管理データについても蓄積と抽出について検討を行った。
- 情報提供、データ分析においては、前年度に引き続き外部講師の活用により DPC データの分析等、病院の立ち位置を含む情報提供を定期的実施できた。

### 2 課題

- データの2次利用において、医師の症例登録等、直接の診療業務以外でのデータ利活用については、医師個人のデータ収集に頼る部分があるため、病院全体としてのシステム構築が課題となった。データベースへの登録作業における医師事務作業補助体制の業務検討や、蓄積されたデータの統計処理において効率的に抽出できる仕組み作りが課題となっている。

## 5 職員研修

## 5-1 職員研修（医師）

### 1 データ

#### ①事業実績

（研修会等名）	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
モーニングセミナー	年間 61 回	年間 57 回	年間 58 回
医学生向け見学会	年間 3 回	年間 3 回	年間 3 回
Morbidity and Mortality Conference	年間 8 回	年間 5 回	年間 4 回
講演会	年間 4 回	年間 3 回	年間 2 回
新規採用者 オリエンテーション	4 月 1 日開催	4 月 1 日開催	4 月 1 日開催
チーム医療 ワークショップ	年 2 回	年 2 回	年 2 回
院内 CVC ライセンス 制度	認定試験 年間 9 回	認定試験 1 回 (3 日間)	認定試験 1 回 指導者試験 2 回
院内腹腔鏡手術技術認定 試験	年間 7 回	年間 6 回	年間 5 回
指導医養成講習会	年間 1 回	年間 1 回	-
管理者育成研修	-	年間 2 回	年間 1 回

#### ②定員数（採用数）

##### （研修医）定員数（採用数）

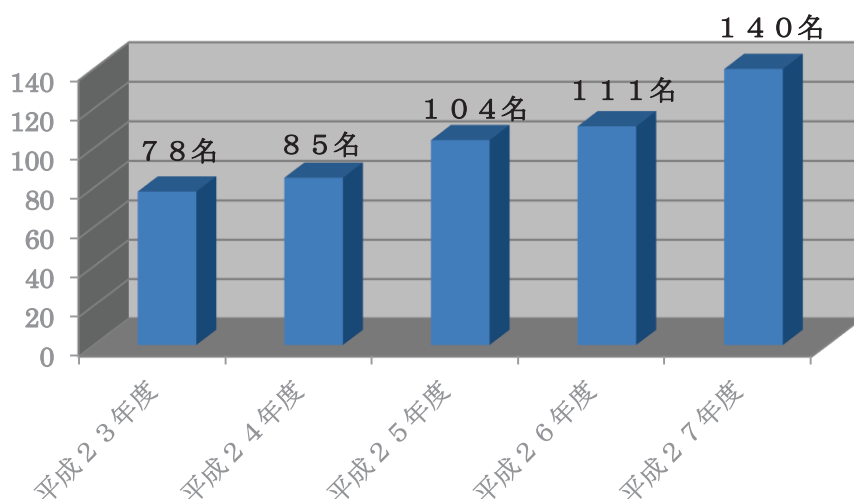
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
7 (6)	7 (6)	13 (13)	13

##### （研修歯科医）定員数（採用数）

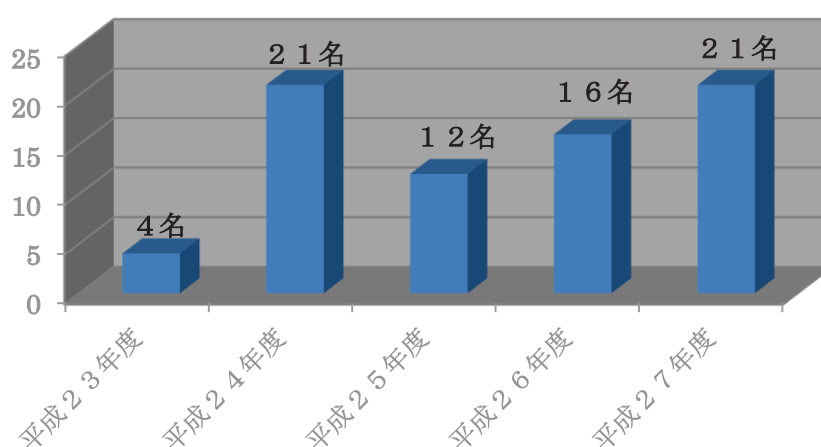
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1 (1)	1 (1)	1 (1)	1

### ③病院見学者数（のべ人数）

#### 医学生見学者数



#### 歯学生見学者数



## 2 成果

平成27年度より研修医数が7名から13名へと増加した。そのため、研修医に対して、個別面談・意見交換会を開催することにより、研修を行う上での問題点やニーズについて適宜改善を行った。

また、臨床研修プログラムの変更申請を行い、地域医療研修として、平成27年度より、置戸赤十字病院の研修開始、心臓血管外科を選択科に追加し、研修医の選択の幅を広げた。加えて、平成28年度開始のプログラムより、外科の選択に形成外科、乳腺外科、心臓血管外科を追加し、選択できるようにした。

より安全な医療を提供するために院内技術試験に、シュミレーターを使った



腹腔鏡外科手術、中心静脈穿刺法の技術認定試験制度に加え、平成 27 年度より、中心静脈穿刺法の指導医認定試験を開始した。

### 3 課題

平成 28 年度より、研修医が 1 学年 13 名（平成 26 年度採用者までは、6 名）体制となるため、これまで以上に研修診療科の調整や研修環境の整備、研修医の体調等の管理が求められる。また、平成 29 年度より新専門医制度が開始されるため、そのプログラム・体制の整備や臨床研修プログラムとの調整がより重要となってくると考えられる。

## 5-2 職員研修（看護部）

### 1 データ

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
実践者ラダーレベルⅠ認定	55 人	44 人	44 人
レベルⅡ認定	45 人	38 人	50 人
レベルⅢ認定	10 人	4 人	20 人
管理者ラダーレベルⅠ認定		0 人	2 人
レベルⅡ認定		0 人	1 人
ラダー研修	80 回	72 回	75 回
新人技術研修	8.5 日	8.5 日	8.5 日
院外研修(看護協会)	112 人	114 人	108 人
看護管理者ファースト研修	6 人	6 人	2 人
看護管理者セカンド研修	1 人	1 人	1 人
看護管理者サード研修	1 人	0 人	1 人
臨床指導者研修(長期)	2 人	4 人	2 人
(短期)	5 人	12 人	9 人
認定看護師研修	2 人	0 人	1 人
学会発表・参加	50 人	60 人	66 人

### 2 成果・課題

#### 1) 自律した看護職員の育成

26 年度に「当院が求める看護師像」を改めて具現化し、看護職員はそれに向けて、主体的に院内・外の研修を自ら選択し、キャリア開発に取り組んだ。

27 年度の実践者ラダー研修（別添 研修計画）は 18 コースあり、年 63 回（新人の技術研修は除く）の研修を実施し、受講者はのべ 628 名となった。特にラダーレベルⅢの研修では、学びを看護実践に活かし各部署の看護の成果を発表した。

管理者は教育目的の「一人ひとりが役割を果たす中で自己成長すること」を意識し、一人ひとりの目標に合わせた役割をマッチングし、自己成長を支援している。課題は、一人ひとりが取り組んだ成果と自身の成長を実感できる支援である。

#### 2) 看護職員の離職防止

新人看護職員の離職率は 6.7% となった。新人看護職員の集合教育は 85 時間実施している。また、新人看護職員臨床研修体制としては実地指導者と教育担当者の研修も実施した。部署の教育体制の充実及び全職種参加によるワークショップの成果であり、このまま継続していきたい。一方、卒後 3 年目から 5 年目の看護師は役割の増大に負担を感じているため、看護師としての

やりがいにつながるよう、個人の耐性を理解し支援することが課題である。今後は、目標管理面接に着目し課題に取り組みたい。

### 3) 看護管理者の管理実践能力向上のためのキャリア開発

主体的な研修受講を推進するため、管理者ラダーのレベルに合わせた研修と実践内容について一覧に示した。また、院外研修については各自の課題に即して積極的に受講できるようにした。

管理者ラダー I の院内研修については、2 コース、年 12 回の研修を実施し、19 名が受講した。26 年度に研修を開始した「新任係長研修」については学会で実践報告できた。また、28 年度の研修開始を目指し「新任師長研修」を構築した。

ラダーの取得については 11 月に初めてのレベル I 申請があり、運用も検証できた。課題は、ラダーレベル取得の推進と適正な評価が行えるための評価者トレーニングである。

### 4) 一人ひとりが電子カルテシステムを活用した主体的なキャリア管理

26 年度に医療情報課とシステム構築を行い、27 年度に導入し、院内外の研修管理を開始した。1 年かけて稼働と運用の検証を行いながら段階的に導入できた。28 年度までに全てのシステムを導入する。

課題は、一人ひとりがシステムを積極的に活用して自身のキャリアファイルを作成し、同時に職員の研修データの蓄積と管理をしていきたい。



### 5-3 職員研修（薬剤部）

#### 1 データ

##### 部内研修実績

- ・ バランススコアカード(BSC)に関する研修(個人目標へのつなげ方) 3回
- ・ 製品説明会(新薬に限らず情報が必要な製品) 15回
- ・ 文献検索、DI情報取扱いに関する研修 2回
- ・ 治験薬に関する勉強会 7回
- ・ がんに関する勉強会 8回
- ・ 感染に関する勉強会 4回
- ・ NSTに関する勉強会 3回
- ・ 妊婦授乳婦に関する勉強会 3回
- ・ 院内医師を講師としての勉強会 1回
- ・ 学会報告会 13回
- ・ 病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会 9回
- ・ 各種抄読会 10回

##### 学会発表(論文投稿を含む)

- ・ 日本医療薬学会 6演題
- ・ かながわ薬剤師学術大会 2演題
- ・ 日本薬学会 1演題
- ・ 日本病院薬剤師会 1題(論文投稿)

#### 2 成果

- ・ 薬剤部内において部員会でのプログラムの作成し、部内研修委員を中心に部員会をはじめとした研修の質の向上に努めている。
- ・ 専門、認定薬剤師取得を見据えた研修及び学会に積極的に参加し、その結果について部内フォーマットによる書面報告や部員会における口頭報告を実施し、その成果を部全体で共有している。また研修成果として学会発表(論文投稿を含む)を積極的に行っている。
- ・ BSCをもとに、個人目標シートを作製するとともに年2回の面談を実施し目標達成度と次の目標を確認しながら所属長および研修担当と各職員が情報を共有することとし継続的に実施している。
- ・ 当院の臨床研修センターによる新人研修により他職種との連携の必要性についても研修している。また研修医を対象としたモーニングセミナーにも年間を通して積極的に参加し臨床上において必要な知識を学んでいる。

### 3 課題

- ・ 専門、認定薬剤師取得者を増加させるため、研修、学会への参加を更に積極的に進める。また、他施設の見学及び研修も積極的に進め、専門、認定の必要性についても理解を深める。
- ・ 設定した個人目標を確実に達成させ、個々の質を高めるとともに薬剤部全体の質を高めるよう目標シートの活用や部員会の充実に努める。

#### 5-4 職員研修（医療技術部門）

##### 1 データ

平成26年度院内研修報告（医療技術部門）		
開催日	研修内容	対象
6月12日	放射線勉強会	検査部
6月19日	放射線被曝勉強会	全医療技術系
6月23日	緊急時対応訓練	放射線科部、看護部、他
6月26日	ファントム君（インシデント報告ツール）の使い方	全医療技術系新入職員
7月1日	アナフィラキシー勉強会	放射線科部、看護部、他
7月8日	造影剤勉強会	放射線科部、看護部、他
7月15日	プレゼンテーション研修	全医療技術系レベルⅢ以上
8月19日	プレゼンテーション研修	全医療技術系レベルⅢ以上
8月26日	プレゼンテーション研修①-1	全医療技術系レベルⅢ以上
9月3日	プレゼンテーション研修①-2	全医療技術系レベルⅢ以上
9月4日	プレゼンテーション研修①-3	全医療技術系レベルⅢ以上
9月12日	プレゼンテーション研修①-4	全医療技術系レベルⅢ以上
9月19日	プレゼンテーション研修②-1	全医療技術系レベルⅢ以上
10月7日	プレゼンテーション研修②-2	全医療技術系レベルⅢ以上
10月16日	患者移動における研修	放射線科部、検査部、リハ部
10月24日	プレゼンテーション研修②-3	全医療技術系レベルⅢ以上
12月4日	プレゼンテーション研修③-1	全医療技術系レベルⅢ以上
2月3日	医療機器安全管理に関する講演	全医療技術系
2月24日	プレゼンテーション研修③-2	全医療技術系レベルⅢ以上

平成27年度院内研修報告(医療技術部門)

開催日	研修内容	対象
4月2日	オリエンテーション(医療技術系)	全医療技術系新入職員
5月15日	ファントム君(インシデント報告ツール)の使い方	全医療技術系新入職員
6月22日	シリンジポンプ勉強会	全医療技術系レベルⅠ～Ⅱ
6月23日	緊急時対応訓練	放射線科部、看護部、他
7月17日	接遇勉強会	全医療技術系職員
7月23日	自動心マッサージ;ルーカスⅡについて	放射線科部、検査部、リハ部
10月14日	患者移動における研修	全医療技術系職員
11月24日	感染講習会	全医療技術系職員

## 2 成果

混合職種に共通して行える研修を企画・開催し医療安全と緊急時対応などチーム医療の意識を高めることができた。

## 3 課題

- ・さらなる能力別到達目標に則した研修プログラムの企画・運営
- ・医療安全に関する研修項目の増加
- ・毎月の開催と、各部門への啓蒙で参加人数の増加



## 5-5 職員研修（事務部）

### 1 データ

	平成 26 年度	平成 27 年度
レベル 1 (入社 1 年目)	対象者 10 人 看護部体験（6 月） 当直業務研修（7 月） など 21 回	対象者 5 人 総合案内研修（5・10 月） コミュニケーションスキル研修（月） など 21 回
レベル 2 (入社 2 年目)	対象者 7 人 診療報酬・DPC 会計の基礎など 8 回	対象者 10 人 業務改善成果発表 目標管理など 8 回
レベル 3 (中堅)	対象者 43 人 出張内容伝達発表会 など 6 回	対象者 36 人 ハイパフォーマー観察研修 など 6 回
レベル 4 (係長クラス)	対象者 14 人	対象者 14 人
	管理者育成研修 など 7 回	防災研修 など 5 回
レベル 5 (課長クラス)	対象者 12 人	対象者 13 人
	課長係長合同会議 など 7 回	暴力対応研修、防災研修 など 5 回

### 2 成果

レベル別教育研修の取り組み開始から、4 年が経過した。層の広いレベル 3 に対する教育内容の充実がテーマだったが、「ハイパフォーマー観察研修」など新たな取り組みができ、また、レベル 1 及び 2 については、習熟度の判定（効果測定）を行い、足並みをそろえることができた。

### 3 課題

引き続き、レベル 3 の研修内容の充実が継続的な課題である。また、研修スタッフの負担感が増えないように配慮し、新たな取り組みを取り入れて、実践に強く、かつ変化には柔軟に対応できる人材を育てることが課題である。

## 6 院外からの研修受入れ

## 6-1 院外からの研修受け入れ（看護部）

### 1. データ

#### (1) 研修受け入れ数（添付資料参照）

##### 1) 看護基礎教育実習

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
受け入れ総数	314 名	326 名	387 名

##### 2) 卒後教育実習

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
受け入れ総数	19 名	14 名	11 名

#### (2) 実習指導者研修修了者

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
実習指導者研修修了者数※	11 名	15 名	20 名

※実習指導者研修修了者数には、看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修は含めず

### 2. 成果と課題

#### (1) 看護基礎教育と卒後教育の受け入れ

- 1) 看護基礎教育は、今年度計画した2大学（日本赤十字看護大学、創価大学）、3看護専門学校（神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校）の受け入れを行い昨年より51名多い387名の学生を受け入れた。今後も神奈川県内の看護学生の受け入れも増やすように計画する。
- 2) 卒後教育は、認定看護師養成課程、認定看護管理者養成課程、大学院修士課程等の学生を11名受け入れた。実習指導は、その領域の専門看護師・認定看護師・看護管理者が中心に指導し実習目標を達成した。その他、日本赤十字社東部ブロック医療施設「施設体験」や神奈川県看護協会からの地域連携の研修会を受け入れ、他施設との交流を図り相互に学びを得ている。

#### (2) 実習指導者の育成

正規の実習指導者研修は、毎年受講が2名程度と難しい状況であるが、平成26年度から日本赤十字社幹部看護師研修センター赤十字看護管理者研修Iにて実習指導者研修が行われるようになり、現在まで26名派遣できた。また、院内臨床指導者委員会も活用し実習指導者の育成を支援している。今後も実習指導者の育成は継続した課題である。





## 6-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

### 1 データ

研修名	25年度	26年度	27年度
薬科大実務実習	12名	10名	15名
早期体験実習	20名	24名	25名
JICA研修	4名	0名※	0名※

※26,27年度は研修自体が実施されず

### 2 成果

薬科大実務実習では、提携大学数を拡大しコアカリキュラムのプログラムを中心に臨床現場に重点を置き、学生一人一人に実習担当として薬剤師を配置して臨床に則した実習を行った。また、薬薬連携を目的とし近隣調剤薬局の学生とともに当院の患者に対する症例検討を学生版薬薬連携実習として実施した。また薬科大の早期体験実習、中学生の職場体験実習、神奈川県病院薬剤師会実務実習の受け入れを行った。

### 3 課題

28年度の実務実習では、薬科大の要望により受け入れ人数の拡大を図り、病棟業務を中心に臨床に則した充実した実務実習を実施する。災害救援等においても日赤病院としての役割について外部講師を招き、実務実習の1コマとして講演会を実施する。その他の実習受け入れも積極的に実施する。

### 6-3 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

#### 1 データ

リハビリテーション実習生受け入れ状況

平成 25 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	2 名	
平成 26 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	2 名	
	作業療法臨床実習生	1 名		
平成 27 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	2 名	
	作業療法評価実習生	1 名	作業療法臨床実習生	1 名

#### 2 成果

平成 27 年度の当初目標の通り、理学療法及び作業療法学生の実習を受け入れることができた。実習を通して、学生には実際の臨床現場を十分に体験させるでき、実習指導を担当したスタッフには人材育成という重要な業務について、研鑽を積む良い機会となった。

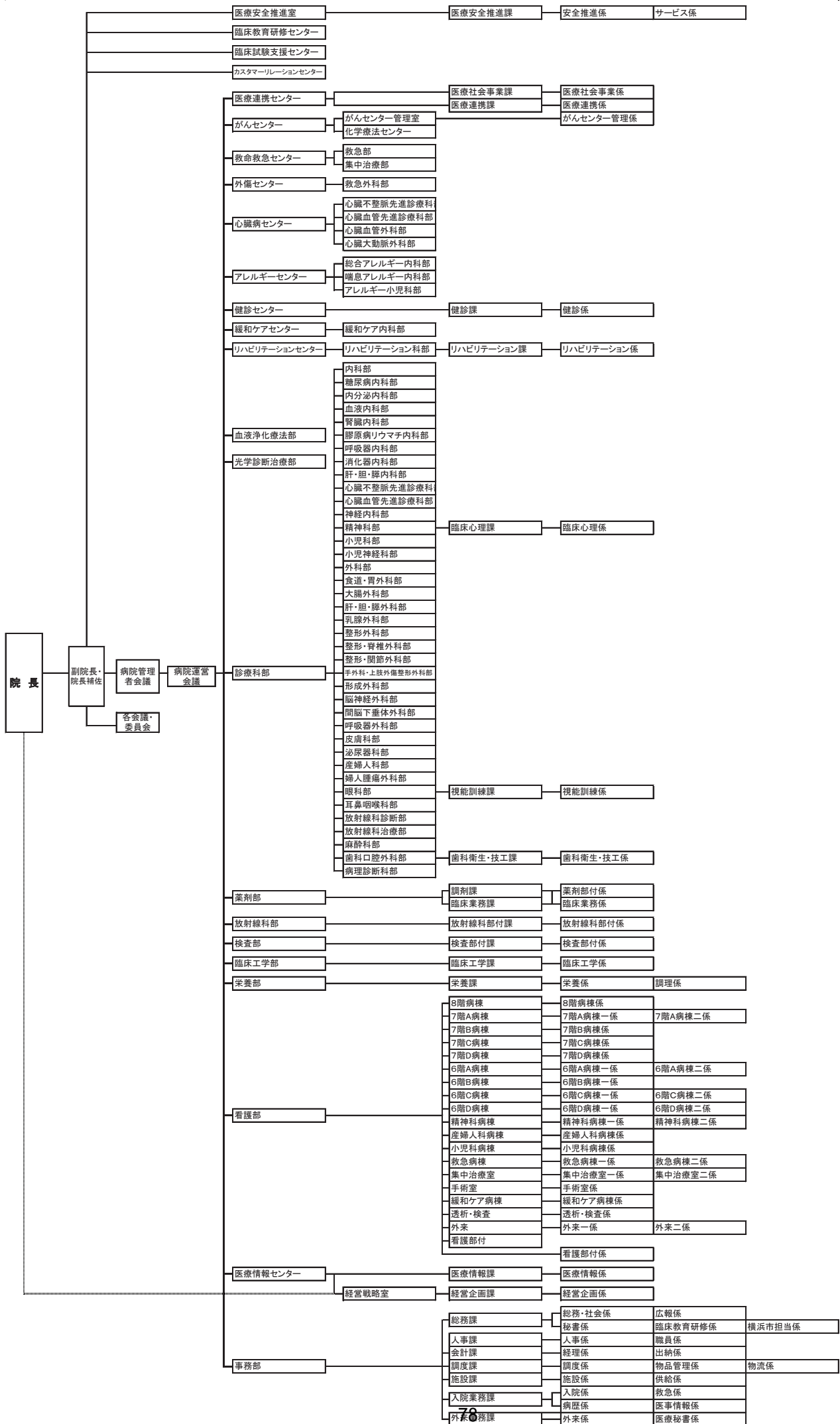
#### 3 課題

実習生を受け入れる上で問題になるのが、実習担当スタッフの時間的、精神的負担である。本来の診療時間の中での指導になり、特にリハビリテーションスタッフは 1 単位 20 分という時間の制約のなかで、患者の診療に関わるため、どうしても超過勤務を余儀なくされてしまう。また、実習生の評価をする立場になるため、評価者になることへの少なからずの抵抗がある。特に年齢の若いスタッフはなおさらである。その中でいかにして、後輩たちを優秀な人材に育て、当院の魅力を良く知ってもらうかが、今後の課題である。

## 7 職員



# 横浜市立みなと赤十字病院 組織図 2015.10.1



## 7-2職員配置状況

	職 種	配置 人員数	内 訳			備 考
			常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事 務 職 員	193.1	66	15.1	112	看護師3名含む
	技 術 職 員	4.0	4	-	-	
	運 転 手	0.0	-	-	-	
	ボ イ ラ ー 技 師	0.0	-	-	-	
	電 話 交 換 手	2.0	1	-	1	
診 療 部 門	医 師	203.0	193	10	-	
	歯 科 医 師	5.1	5	0.1	-	
看 護 部 門	看 護 師	607.5	594	13.5	-	
	准 看 護 師	2.0	2	-	-	
	看 護 助 手	66.3	22	28.3	16	
	事 務 職 員	20.0	2	1	17	保育士1人含む
健 診 部 門	看 護 師	4.0	4	-	-	
	事 務 職 員	11.0	2	-	9	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	6.0	6	-	-	
	精 神 保 健 福 祉 士	3.0	3	-	-	
	看 護 師	4.0	4	-	-	
	事 務 職 員	11.0	6	2.0	3	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	39.0	39	-	-	
	診 療 放 射 線 技 師	32.0	32	-	-	
	臨 床 検 査 技 師	39.0	39	-	-	衛生検査技師1含む
	理 学 療 法 士	19.0	18	1.0	-	
	作 業 療 法 士	6.0	6	-	-	
	言 語 聴 覚 士	4.0	4	-	-	
	マ ッ サ ー ジ 師	0.0	-	-	-	
	臨 床 工 学 技 士	9.0	9	-	-	
	視 能 訓 練 士	2.0	2	-	-	
	歯 科 衛 生 士	3.0	2	1.0	-	
	臨 床 心 理 士	2.0	2	-	-	
	管 理 栄 養 士	9.0	9	-	-	
	栄 養 士	0.0	-	-	-	
	調 理 師	6.0	6	-	-	
	事 務 職 員	4.0	-	-	4	治験事務の派遣
その他		4.1	1	1.1	2	アレルギーセンター事務4.1
合 計		1320.1	1083	73.1	164	

## 8 施設管理

## 8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	中央	ホルター心電図解析装置	検査解析用	更新
2	診療	喘息予測システム	アレルギー政策用	新規
3	中央	カセット型DR装置	放射線科用	更新
4	中央	生体情報モニタリングシステム	内視鏡室用	新規
5	中央	全身麻酔装置	手術用	更新
6	中央	超音波洗浄装置	滅菌洗浄用	更新
7	中央	MR I	放射線科用	新規
8	診療	内視鏡システム	手術用	更新
9	診療	バイポーラ凝固切開装置	手術用	更新
10	診療	超音波診断装置	産婦人科用	更新
11	診療	超音波診断装置	救急外来用	更新
12				
13				
14				
15				

## 8 - 2 施設設備改修報告

(平成27年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	施設・設備名称	面積(m <sup>2</sup> )	用途	新規・修繕
1	1階コーヒーショップ	外来ホール一部用途変更改修工事	61.2m <sup>2</sup>	飲食スペースの提供	修繕
2	1階レストラン・売店	業者入替による改修工事	392.1m <sup>2</sup>	飲食・購買スペースの提供	修繕
3	2階MR I 室 3	機器増設に伴う室内改修工事	52.0m <sup>2</sup>	MR I 検査用	修繕
4	8階特別個室 3 室	室内改修工事	79.5m <sup>2</sup>	コンシェルジュサービスの提供	修繕
5					
6					
7					

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検査業務

法定点検査業務等	点検種別	周期	実 施 月												関連法規及び保守管理基準		
			平成27年(2015年)						平成28年(2016年)								
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
特定建築物	定期検査	1回/1~3年							●								建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
家用電気工作物	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
ボイラー	性能検査	1回/年		●													労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年		●													労働安全衛生法
コンドミ	性能検査	1回/年		●													労働安全衛生法
第2種圧力容器	自主検査	1回/年		●													労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/年		●													労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年							●								水道法
カスタービン(ガス圧縮機)	定期検査	1回/3年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
消防設備	定期検査	2回/年					●										消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/3年				●											消防法(27年度実施)
避難はしご設備	自主点検	2回/年					●										消防法
高圧ガス製造設備	自主点検	1回/年							●								高圧ガス保安法
医療ガス設備	定期点検	4回/年		●													高圧ガス保安法
特定施設(水質測定)	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばい煙測定	定期検査	2回/年			●												大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●							電気事業法
高圧受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●							電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年															電気事業法
(非常用照明)	定期検査	(1回/年)															電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年															電気事業法
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年															電気事業法
建築設備定期検査	定期検査	1回/年															建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年								●							水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年								●							水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

機能維持に関する保守管理等	管理種別	周期	平成27年(2015年)												平成28年(2016年)												関連法規及び保守管理基準
			実 施 月												実 施 月												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
放送呼出装置	自主点検	2回/年				●																	●		消防法		
ナースコール・インターホン設備	自主点検	2回/年				●																●		メーカー標準点検			
昇降機設備	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法			
冷凍機設備	自主点検	3回/年	●	●																				メーカー標準点検			
冷却塔設備	自主点検	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検			
空調制御設備	機能点検	2回/年			●																	●		自主点検			
空調自動制御設備	自主点検	1回/年																				●		メーカー標準点検			
バックージ点検	定期点検	1回/3年																				●		フロン排出抑制法(27年度より実施)			
チラー点検	定期点検	1回/年																				●		フロン排出抑制法(27年度より実施)			
各種水槽設備	清掃	1回/年		●																				横浜市条例			
検査系排水処理設備	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検			
R1排水処理設備	自主点検	2回/年																					●	放射線障害防止法			
自動ドア設備	自主点検	2回/年																					●	メーカー標準点検			
駐車場管制設備	自主点検	2回/年																					●	メーカー標準点検			
搬送設備	自主点検	2回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検			
冷却塔補給水薬注装置	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検			
厨房クリスタルフィルター定期清掃業務	清掃	4回/年			●																		●	自主管理			
厨房クリスタルトラップ定期清掃業務	清掃	6回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法			

その他の保守管理業務	管理種別	実施回数	平成27年(2015年)												平成28年(2016年)												関連法規及び保守管理基準
			実 施 月												実 施 月												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
空調機等フィルター交換(洗浄)	洗浄	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	汚れが認められたら交換			
窓清掃	清掃	2回/年			●																	●		汚れにより適宜行う			
エチレンオキシド環境測定	定期点検	2回/年		●																		●		労働安全衛生法			
ホルムアルデヒド作業環境測定	定期点検	2回/年																				●		労働安全衛生法			

8-4 外部委託（平成27年度）

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者（会社名）	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	エームサービス 株式会社	栄養課
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
5	寝具賃貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具賃貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サンビーム・ランドリー	調度課
6	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社柴橋商会	調度課
7	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPD以外の白衣のリース	株式会社サンビーム・ランドリー	調度課
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	ホスピタルパートナーズ株式会社	調度課
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務 等	東邦薬品株式会社	薬剤部
10	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	株式会社 ソラスト	入院業務課 外来業務課
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	株式会社 ソラスト	健診センター
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社 ソラスト	医療情報課
13	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	株式会社日本教育クリエイト	看護部
14	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ポピンズ	総務課
15	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
16	警備業務	院内外の警備業務	国際警備株式会社	施設課
17	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
18	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
19	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
20	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキワ薬品化工	施設課
21	医薬品(医療ガス)供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
22	ナースコール設備保守点検	ナースコール設備保守点検	株式会社ケアコム	施設課
23	院内ネットワークシステム保守点検	院内LANシステム保守点検	富士ゼロックス神奈川株式会社	医療情報課
24	自動尿測定システム保守点検	自動尿測定システム保守点検	円田医科工業株式会社	施設課



## 9 經營報告

平成27年度 診療科別患者数等管理数値

診療科	外来(243日)						入院(366日)										救急患者									
	新患者数		延患者数		1日平均		新入院数			退院数		延患者数		1日平均		在院日数		全体		救急車		入院		入院率		
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度
総合内科	1,028	1,067	1,671	1,820	7	7	144	140	12	4	241	222	1	1	1.6	1.6	1,187	150	178	15.0						
糖尿病内・内分泌内科	591	600	14,774	14,784	61	61	338	261	28	381	5,388	4,609	15	13	11.8	12.8	133	88	109	82.0						
血液内科	197	224	3,945	3,864	16	16	347	328	29	350	6,756	7,925	16	22	17.8	21.9	51	34	43	84.3						
腎臓内科	25	260	5,282	4,447	22	18	219	195	18	266	4,182	4,004	11	11	13.2	13.5	90	61	76	84.4						
膠原病・リウマチ科	279	258	7,334	6,766	30	28	113	100	9	143	2,809	2,720	8	7	16.9	18.3	28	22	24	85.7						
緩和ケア内科	243	174	483	474	2	2	154	117	13	179	5,012	6,860	14	19	(29.0)	(38.9)	9	8	9	100.0						
呼吸器内科	1,319	1,327	12,830	11,470	53	47	1,197	1,147	100	1,206	18,377	19,502	50	53	13.5	15.6	734	476	564	76.8						
消化器内科	2,917	2,912	25,285	23,374	104	96	1,875	1,852	156	1,857	22,007	21,174	60	58	11.6	11.4	1,306	531	719	55.1						
循環器内科	1,239	1,238	14,489	14,014	60	57	1,633	1,686	136	1,616	13,679	15,545	37	43	7.2	7.9	561	291	395	70.4						
神経内科	604	636	6,546	6,162	27	25	483	518	40	514	11,994	14,184	33	39	20.9	23.9	373	282	322	86.3						
アレルギー科	322	289	5,180	4,909	21	20	36	46	3	38	153	237	0	1	3.0	3.9	62	21	27	43.5						
小児科	4,298	4,617	17,198	17,483	71	72	1,296	1,345	108	1,295	6,677	6,868	18	19	4.4	4.6	3,314	740	489	14.8						
外科	697	655	10,443	10,135	43	42	1,356	1,157	113	1,360	15,377	13,385	42	37	10.0	10.5	359	161	272	75.8						
乳腺外科	702	540	8,158	6,804	42	34	226	226	19	226	2,244	1,953	6	5	8.5	7.7	34	5	13	38.2						
呼吸器外科	29	17	1,525	1,339	11	9	80	72	7	93	87	792	2	2	7.5	8.4	6	3	4	66.7						
心臓血管外科	130	106	1,376	789	10	8	175	104	15	190	3,766	2,538	10	7	15.3	18.2	61	42	51	83.6						
脳神経外科	748	730	3,525	3,664	24	25	372	307	31	364	7,864	6,914	21	19	18.8	19.6	614	274	304	49.5						
整形外科	3,068	3,139	23,695	23,961	123	124	1,215	1,277	101	1,277	20,352	22,380	56	61	14.5	15.1	905	258	272	30.1						
形成外科	777	841	5,091	6,509	26	34	154	176	13	161	2,380	2,126	7	6	13.0	10.2	380	20	16	4.2						
皮膚科	1,634	1,722	12,023	11,409	49	47	166	121	14	164	1,907	1,640	5	4	9.7	12.0	256	24	31	12.1						
泌尿器科	1,221	1,242	15,023	15,014	62	62	901	816	75	910	8,319	6,886	23	18	9.3	8.6	415	77	100	24.1						
産婦人科	1,888	2,172	30,346	33,011	125	135	1,369	1,478	114	1,361	9,738	10,972	27	30	6.1	6.5	1,133	114	694	61.3						
眼科	621	465	8,279	7,745	34	32	296	115	25	296	1,007	410	3	1	6.2	5.8	26	1	0	0.0						
耳鼻いんこう科	878	1,932	7,953	11,268	41	46	146	413	12	158	811	2,362	2	6	4.3	4.6	44	4	2	4.5						
リハビリテーション科	12	12	1,032	712	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0						
精神科	396	388	10,547	9,699	55	50	186	177	16	224	9,529	9,287	26	25	25.1	33.0	66	26	46	70.6						
放射線診断科	1,364	1,363	1,593	1,581	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0	0	0.0						
放射線治療科	67	63	5,031	4,576	21	19	57	34	5	54	1,381	739	4	2	21.2	19.2	4	2	2	50.0						
歯科口腔外科	2,268	2,225	12,228	12,207	50	50	378	292	32	378	785	623	2	2	1.1	1.1	12	3	4	33.3						
救急科	7,112	7,930	10,408	11,379	28	31	807	838	67	645	7,186	8,116	20	22	7.4	8.4	10,145	7,727	832	8.2						
平成27年度 合計	37,008	39,144	283,283	281,169	1,166	1,152	15,723	15,338	1,310	15,710	190,799	194,773	521	534	10.4	10.9	22,310	11,447	5,600	25.1						
平成27年度	病床利用率・・・82.2% 紹介率・・・82.1% 逆紹介率・・・70.3% 分娩件数・・・964件																									
平成26年度	病床利用率・・・84.2% 紹介率・・・77.5% 逆紹介率・・・61.2% 分娩件数・・・1071件																									

平成27年度

診療科別患者数等管理数値

稼働額は、千円単位 収入単価は、円で表示

診療科	外来診療収入				入院診療収入				入外合計額				手術		外来 日数 (H 26)			
	診療収入		収入単価		診療収入		収入単価		当年度平均		前年度平均		当年度	前年度		外来 日数 (H 27)		
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度				
総合内科	23,861	23,981	14,280	13,177	24,118	22,139	23,400	21,222	97,093	95,595	47,979	3,998	46,120	3,843	0	0	243	
糖尿病内・内分泌内科	195,597	186,023	13,239	12,583	243,078	212,091	234,871	204,093	43,592	44,281	438,675	36,556	398,114	33,176	0	0	243	
血液内科	167,286	175,824	42,404	45,503	531,370	595,328	522,126	581,551	77,295	73,382	698,652	58,222	771,151	64,263	0	0	243	
腎臓内科	87,956	68,863	16,620	15,485	236,642	231,572	228,466	228,165	54,630	59,984	324,597	27,050	300,435	25,036	54	67	243	
膠原病・リウマチ科	180,846	170,218	24,658	25,158	125,305	121,043	120,850	116,500	43,022	42,831	306,150	25,512	291,260	24,272	0	0	243	
緩和ケア内科	2,850	2,563	6,292	5,407	280,321	368,018	244,188	324,904	48,721	47,362	283,171	23,598	370,581	30,882	0	0	243	
呼吸器内科	208,716	176,078	16,268	15,351	947,715	947,668	889,346	888,975	48,395	45,584	1,156,430	96,369	1,123,746	93,645	3	2	243	
消化器内科	319,712	313,040	12,644	13,393	1,269,949	1,258,504	1,202,695	1,183,344	54,651	56,359	1,589,660	132,472	1,571,544	130,962	0	0	243	
循環器内科	215,389	204,000	14,855	14,557	2,765,253	2,491,486	2,737,802	2,458,732	200,146	158,169	2,980,642	248,387	2,695,485	224,624	26	17	243	
神経内科	68,000	61,261	10,388	9,942	638,057	727,957	615,544	705,480	51,321	49,738	706,058	58,838	789,218	65,768	0	0	243	
アレルギー科	40,905	39,011	7,897	7,947	9,478	14,237	8,983	13,540	58,710	57,131	50,383	4,199	53,247	4,437	0	0	243	
小児科	172,943	174,954	10,056	10,007	399,078	411,474	392,560	404,610	58,793	58,912	572,021	47,668	586,428	48,869	0	0	243	
外科	275,268	243,553	26,359	24,031	1,250,855	1,073,418	1,042,325	78,532	77,873	1,526,123	127,177	1,316,970	109,748	1,008	914	0	2	243
乳腺外科	278,606	195,838	34,152	29,654	190,820	178,564	180,065	169,380	80,243	86,728	469,429	39,116	374,402	31,200	221	210	194	
呼吸器外科	27,816	29,871	18,238	22,308	109,846	95,706	108,012	93,827	123,160	118,469	137,659	11,472	125,576	10,465	77	65	145	
心臓血管外科	15,346	10,239	11,151	12,977	785,987	531,698	758,381	527,891	201,269	207,995	781,330	65,111	541,937	45,161	221	141	101	
脳神経外科	43,090	48,934	12,224	13,355	599,925	485,000	589,253	475,448	74,930	68,766	643,015	53,585	533,933	44,494	173	118	145	
整形外科	177,949	179,316	7,506	7,484	1,556,110	1,644,220	1,509,541	1,591,317	74,172	71,104	1,733,959	144,497	1,823,536	151,961	1,202	1,231	193	
形成外科	30,937	39,901	6,077	6,130	151,483	144,438	147,750	140,493	62,080	66,083	182,420	15,202	184,338	15,362	386	437	194	
皮膚科	48,824	38,577	4,061	3,381	81,736	64,101	76,543	61,032	40,138	37,215	130,560	10,880	102,678	8,557	157	109	243	
泌尿器科	216,905	222,763	14,438	14,837	585,436	468,851	583,085	451,682	67,687	67,556	802,341	66,862	691,614	57,634	638	641	243	
産婦人科	188,076	206,080	6,198	6,243	857,725	926,122	825,305	890,363	84,751	81,149	1,045,801	87,150	1,132,201	94,350	503	479	243	
眼科	62,692	49,129	7,572	6,343	90,073	34,549	87,965	33,757	87,354	82,333	152,766	12,730	83,679	6,973	347	137	243	
耳鼻いんこう科	45,838	74,826	5,764	6,641	44,221	126,477	32,251	102,048	39,767	43,204	90,059	7,505	201,303	16,775	0	62	243	
リハビリテーション科	3,952	2,838	3,830	3,986	0	0	0	0	0	0	3,952	326	2,838	236	0	0	0	
精神科	66,246	58,835	6,281	6,066	342,353	326,828	338,042	322,153	35,472	34,689	408,602	34,050	385,663	32,139	303	128	193	
放射線診断科	59,316	54,213	37,235	34,290	0	0	0	0	0	0	59,316	4,941	54,213	4,518	0	0	243	
放射線治療科	99,476	89,818	19,773	19,628	75,423	35,802	70,896	32,579	51,338	44,085	174,901	14,575	125,720	10,477	0	0	243	
歯科口腔外科	77,690	70,078	6,353	5,741	53,131	47,199	52,574	44,711	66,974	71,768	130,821	10,902	117,277	9,773	377	299	243	
救急科	251,337	276,676	24,148	24,315	801,042	817,240	792,623	808,605	110,301	99,631	1,052,378	87,698	1,093,916	91,160	1	6	365	
平成27年度合計	3,653,321	3,487,299	12,896	12,403	15,026,528	14,401,825	14,560,700	13,928,729	76,314	71,513	18,679,849	1,556,654	17,889,124	1,490,760	5,697	5,063	243	
単位/千円	人間ドック				健康診断				合計									
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
平成27年	2033	141,110	9151	66,703	11,184	207,813												
平成26年	1843	124,293	8130	57,267	9,973	181,560												

H27年

中央部門業務件数(放射線部) H27年

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
X線	胸部撮影	人数	3312	3122	3378	3499	3363	3341	3589	3367	3653	3613	3744	41637	
	腹部撮影	人数	621	657	646	674	628	617	642	597	570	568	644	7435	
	骨部撮影	人数	1629	1561	1646	1630	1564	1543	1567	1556	1567	1617	1633	1785	19298
	その他単純撮影	人数	166	141	171	154	147	154	135	146	146	158	133	133	1804
	血管造影	人数	155	147	175	155	159	158	165	157	198	155	169	209	2002
	消化器造影	人数	186	181	271	263	234	246	305	268	254	272	278	317	3075
	泌尿器造影	人数	42	46	49	44	51	51	53	53	50	58	73	65	635
	透視他造影	人数	59	42	63	68	60	50	56	56	44	52	67	29	646
	骨塩定量	人数	116	105	131	129	115	136	109	128	124	147	150	161	1551
	ポータブル	人数	1473	1356	1321	1754	1389	1180	1332	1263	1706	1401	1532	1693	17400
	合計	人数	7759	7358	7851	8370	7710	7476	7953	7591	8323	8071	8241	8780	95483
	CT検査	頭頸部	人数	769	849	836	800	761	767	812	774	873	952	879	9900
		躯幹部	人数	1812	1765	1983	1952	1823	1863	2076	1883	2044	2002	2082	23377
		合計	人数	2581	2614	2819	2752	2584	2630	2888	2657	2917	2954	2961	33277
頭頸部		人数	335	319	383	352	317	351	388	373	371	373	428	445	4435
MRI 検査	その他	人数	385	350	417	470	379	315	478	415	387	431	448	4880	
	合計	人数	720	669	800	822	696	666	866	788	760	859	893	9315	
RI	体外測定	件数	112	89	114	109	80	81	110	109	100	100	122	1238	
PET/CT	体外測定	人数	87	92	90	91	99	98	85	76	107	95	100	1113	
放射線 治療	照射件数(入院)	件数	410	242	242	316	273	156	233	194	118	218	177	2720	
	照射件数(外来)	件数	342	456	453	441	371	294	365	522	403	466	542	5214	
	合計件数	件数	752	698	695	757	644	450	598	716	521	684	719	7934	

中央部門業務報告(臨床検査部)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
検体検査	一般(ブランチ)	件数	6963	6970	7871	8162	7980	7222	8103	7512	7817	7815	7938	8685	93038
	血液	件数	18840	18131	19472	19886	19441	17876	19162	18154	19306	19278	19902	20544	229992
	血液(外注)	件数	8544	8619	9032	8929	8535	8111	8358	8102	9076	8860	9173	9449	104788
	生化学(ブランチ)	件数	156392	149283	162502	165252	157959	147483	159235	148102	161872	158616	162913	168437	1898046
	免疫血清(ブランチ)	件数	7325	7145	7789	7598	7580	4736	8300	7823	7643	8023	8503	8548	91013
	細菌(一般)	件数	2985	2940	2945	3465	3156	2601	2853	2692	3285	3248	3127	3259	36556
	細菌(結核)	件数	155	127	139	149	145	135	137	145	171	149	160	144	1756
	血液ガス(ブランチ)	件数	952	935	1004	1104	977	906	925	949	1095	1016	988	911	11762
	<b>検体検査合計</b>	<b>件数</b>	<b>202156</b>	<b>194150</b>	<b>210754</b>	<b>214545</b>	<b>205773</b>	<b>189070</b>	<b>207073</b>	<b>193479</b>	<b>210265</b>	<b>207005</b>	<b>212704</b>	<b>219977</b>	<b>2466951</b>
	生理検査	心電図	件数	2471	2349	2561	2572	2549	2435	2590	2354	2570	2611	2573	2598
脳波		件数	51	50	44	51	60	45	41	46	43	46	56	55	588
呼吸機能		件数	473	414	503	504	479	412	514	466	444	430	476	437	5552
超音波		件数	1278	1240	1431	1462	1441	1388	1583	1412	1477	1397	1534	1597	17240
心カテ		件数	127	119	117	111	116	120	130	119	162	121	117	146	1505
耳鼻科検査		件数	160	139	145	143	140	112	122	97	121	125	115	143	1562
筋電図・脈波・その他		件数	234	232	301	261	269	275	260	248	263	255	293	317	3208
<b>生理検査合計</b>		<b>件数</b>	<b>4794</b>	<b>4543</b>	<b>5102</b>	<b>5104</b>	<b>5054</b>	<b>4787</b>	<b>5240</b>	<b>4742</b>	<b>5080</b>	<b>4985</b>	<b>5164</b>	<b>5293</b>	<b>59888</b>
時間外検査		患者数	2501	3057	2463	2743	2554	2572	2530	2323	3105	2891	2684	2497	31920
外来採血患者数		患者数	5740	5384	5966	5902	5684	5580	6108	5522	5740	5836	5732	6481	69675
入院患者採血管準備数	患者数	3585	2931	3784	3819	3598	2854	3386	3094	3423	3448	3096	3989	41007	
栄養課従事者検便検査	従事者数	14	14	27	28	27	28	14	13	12	13	13	13	216	
尿素呼吸試験	患者数	37	29	35	32	29	21	28	29	36	34	30	42	382	
病理検査	組織診断	件数	578	495	590	592	543	518	589	622	623	511	589	574	6824
	迅速診断	件数	25	17	23	27	11	17	21	22	20	26	26	26	261
	細胞診断	件数	367	337	400	440	386	417	453	419	426	388	456	417	4906
	その他	件数	58	56	40	60	50	58	60	33	54	48	55	69	641
	病理解剖	件数	2	1	2	1	2	1	1	3	1	4	1	4	23
	<b>合計</b>	<b>件数</b>	<b>1030</b>	<b>906</b>	<b>1055</b>	<b>1120</b>	<b>992</b>	<b>1011</b>	<b>1124</b>	<b>1099</b>	<b>1124</b>	<b>977</b>	<b>1127</b>	<b>1090</b>	<b>12655</b>
	MAP	単位	638	516	666	562	554	526	400	390	732	634	630	598	6846
	FFP	単位	240	183	252	198	216	147	123	138	525	387	495	201	3105
	自己血	単位	2	22	6	19	2	2	4	6	2	2	4	10	81
	濃厚血小板	単位	735	525	765	660	800	520	530	465	1145	985	635	810	8575
その他	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<b>合計</b>	<b>単位</b>	<b>1615</b>	<b>1246</b>	<b>1689</b>	<b>1439</b>	<b>1572</b>	<b>1195</b>	<b>1057</b>	<b>999</b>	<b>2404</b>	<b>2008</b>	<b>1764</b>	<b>1619</b>	<b>18607</b>	
血液型	件数	682	648	680	704	693	640	652	624	696	651	686	706	8062	
交差試験	件数	331	298	343	349	308	315	276	249	363	334	359	371	3896	
不規則抗体	件数	625	575	652	676	649	595	577	570	669	624	636	640	7488	
その他	件数	50	44	39	55	45	40	31	50	45	49	44	55	547	
<b>合計</b>	<b>件数</b>	<b>1688</b>	<b>1565</b>	<b>1714</b>	<b>1784</b>	<b>1695</b>	<b>1590</b>	<b>1536</b>	<b>1493</b>	<b>1773</b>	<b>1658</b>	<b>1725</b>	<b>1772</b>	<b>19993</b>	
アレルギー	NIOX	件数	317	249	313	341	128	239	381	352	347	317	377	364	3725
	モストグラフ	件数	67	57	69	61	59	66	77	55	52	62	63	84	772
	スパイロ	件数	66	62	78	62	66	68	80	59	57	66	65	90	819
	可逆性検査	件数	21	9	18	23	16	7	10	8	17	15	8	20	172
	ブリックテスト	件数	9	8	18	13	15	15	11	19	11	17	21	13	170
	精密肺機能	件数	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	6
	<b>合計</b>	<b>件数</b>	<b>480</b>	<b>386</b>	<b>497</b>	<b>501</b>	<b>284</b>	<b>395</b>	<b>559</b>	<b>494</b>	<b>485</b>	<b>478</b>	<b>534</b>	<b>571</b>	<b>5664</b>

備考 心カテに技師2名、耳鼻科技師1名、アレルギーセンターに1名派遣

中央部門業務報告(処方箋枚数)

平成27年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	9,466	9,398	9,996	10,166	9,665	9,122	10,353	9,651	10,479	10,289	10,553	10,694	119,832
入院 注射	8,232	8,381	8,456	8,970	8,339	7,534	7,781	7,108	8,258	8,943	8,700	8,658	99,360
外来 処方	48	33	83	55	52	50	63	29	41	75	60	52	641
外来 時間外処方	603	630	573	670	614	589	582	603	541	647	644	576	7,272
外来 注射	853	872	967	946	912	831	971	913	1,009	974	981	1,107	11,336
院外処方箋	10,825	9,979	11,298	11,295	10,681	10,742	11,373	10,271	11,315	10,850	10,655	11,959	131,243
抗がん剤混注	515	495	529	571	522	511	560	469	501	532	527	557	6,289
IVH調整	65	44	27	27	10	12	22	30	31	56	34	33	391
服薬指導	1,405	1,242	1,607	1,451	1,485	1,448	1,500	1,490	1,617	1,566	1,705	1,824	18,340

中央部門業務報告(処方箋枚数)

平成27年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	9,466	9,398	9,996	10,166	9,665	9,122	10,353	9,651	10,479	10,289	10,553	10,694	119,832
入院 注射	8,232	8,381	8,456	8,970	8,339	7,534	7,781	7,108	8,258	8,943	8,700	8,658	99,360
外来 処方	48	33	83	55	52	50	63	29	41	75	60	52	641
外来 時間外処方	603	630	573	670	614	589	582	603	541	647	644	576	7,272
外来 注射	853	872	967	946	912	831	971	913	1,009	974	981	1,107	11,336
院外処方箋	10,825	9,979	11,298	11,295	10,681	10,742	11,373	10,271	11,315	10,850	10,655	11,959	131,243
抗がん剤混注	515	495	529	571	522	511	560	469	501	532	527	557	6,289
IVH調整	65	44	27	27	10	12	22	30	31	56	34	33	391
服薬指導	1,405	1,242	1,607	1,451	1,485	1,448	1,500	1,490	1,617	1,566	1,705	1,824	18,340

中央部門業務報告（栄養課）

平成27年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	27,833 件数	27,285	25,575	27,128	29,854	27,291	27,953	26,829	28,197	29,530	28,420	29,702	335,597
治療食	9,020 件数	8,685	8,969	9,094	7,844	7,258	8,907	7,481	8,110	9,023	8,524	8,640	101,555
調乳	319 件数	502	269	419	405	390	368	388	569	311	547	489	4,976
栄養相談	198 件数	181	212	196	226	192	232	217	204	236	156	269	2,519
合計	37,370 件数	36,653	35,025	36,837	38,329	35,131	37,460	34,915	37,080	39,100	37,647	39,100	444,647



中央部門業務報告(リハビリテーション科部)

平成27年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リ ハ ビ リ	理学療法	3,421	3,327	3,465	3,816	3,973	3,027	3,794	3,216	3,232	3,616	4,032	3,933	42,852
	作業療法	1,194	1,126	1,251	1,316	1,196	1,029	1,290	1,149	1,192	1,375	1,546	1,538	15,202
	言語聴覚療法	979	892	977	1,139	989	839	966	890	827	1,021	963	1,044	11,526
	合計	5,594	5,345	5,693	6,271	6,158	4,895	6,050	5,255	5,251	6,012	6,541	6,515	69,580

中央部門業務報告（透析室）

平成27年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透 析	血液浄化療法 件数	270	280	248	292	261	219	268	197	234	269	267	275	3,080

中央業務報告（手術室）

平成27年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	322	273	338	345	292	309	323	299	334	318	375	361	3,889
局所麻酔	102	74	132	141	131	112	123	115	118	104	131	126	1,409
その他麻酔	24	31	34	44	33	28	29	34	29	41	36	36	399
合計	448	378	504	530	456	449	475	448	481	463	542	523	5,697

## 損益計算書（平成27年度）

収 益	予算(A)	27年決算(B)	26年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	19,119,762,000	19,570,365,440	18,907,135,215	450,603,440	663,230,225	3.51%
医業収益	18,372,064,000	18,804,976,671	18,045,673,322	432,912,671	759,303,349	4.21%
入院収益	14,218,916,000	14,509,514,984	13,902,114,503	290,598,984	607,400,481	4.37%
患者延べ数(人)	196,224	190,799	194,773	-5,425	-3,974	-2.04%
患者1日平均(人)	536	521	534	-15	-12	-2.31%
診療単価(円)	72,463	76,046	71,376	3,583	4,670	6.54%
病床利用率(%)	84.56%	82.23%	84.16%	-2.24%	-0.14%	-0.17%
平均在院数(日)		10.40	10.90		-0.50	-4.59%
外来収益	3,341,135,000	3,513,052,919	3,342,357,958	171,917,919	170,694,961	5.11%
患者延べ数(人)	283,343	283,283	281,169	-60	2,114	0.75%
患者1日平均(人)	1,166	1,166	1,152	0	13	1.17%
診療単価(円)	11,792	12,401	11,887	609	514	4.32%
室料差額収益	477,010,000	453,223,710	456,780,980	-23,786,290	-3,557,270	-0.78%
保健予防活動収益	251,389,000	278,649,640	263,933,105	27,260,640	14,716,535	5.58%
受託検査・施設利用収益	0	7,607,750	2,328,550	7,607,750	5,279,200	
その他の医業収益	125,758,000	112,674,856	117,146,438	-13,083,144	-4,471,582	-3.82%
保険等査定減	-42,144,000	-69,747,188	-38,988,212	-27,603,188	-30,758,976	78.89%
医業外収益(医療社会事業収益含む)	747,698,000	751,808,948	781,945,820	4,110,948	-30,136,872	-3.85%
受取利息	0	1,145,352	83,394	1,145,352	1,061,958	1273.42%
本部繰入金	0	412,118	349,380	412,118	62,738	17.96%
他会計繰入金	0	0	0	0	0	
運営費補助金等収益	463,756,000	443,228,477	471,313,418	-20,527,523	-28,084,941	-5.96%
施設設備費補助金等収益	47,457,000	45,745,966	59,743,294	-1,711,034	-13,997,328	-23.43%
患者外給食収益	0	15,000	10,000	15,000	5,000	50.00%
その他の医業外収益	236,485,000	261,262,035	250,446,334	24,777,035	10,815,701	4.32%
特別利益	0	13,579,821	79,516,073	13,579,821	-65,936,252	-82.92%
固定資産売却益	0	0	0	0	0	
貸倒引当金戻入益	0	0	0	0	0	
その他前期損益修正益	0	0	79,383,473	0	-79,383,473	-100.00%
その他特別利益	0	13,579,821	132,600	13,579,821	13,447,221	10141.19%

費 用	予算(A)	27年決算(B)	26年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	昨年度比(B-C)
みなと赤十字病院事業費用	18,848,778,000	19,446,380,826	18,831,550,660	597,602,826	614,830,166	3.26%
医業費用	18,355,489,000	18,964,293,365	18,347,051,314	608,804,365	617,242,051	3.36%
材料費	4,716,109,000	5,198,204,902	4,735,215,797	482,095,902	462,989,105	9.78%
薬品費	1,752,695,000	1,799,556,882	1,732,861,458	46,861,882	66,695,424	3.85%
診療材料費	2,730,089,000	3,170,938,679	2,787,327,743	440,849,679	383,610,936	13.76%
給食材料費	128,604,000	123,386,907	121,450,632	-5,217,093	1,936,275	1.59%
医療消耗品費	104,721,000	94,053,397	93,575,964	-10,667,603	477,433	0.51%
棚卸減耗損	0	10,269,037	0	10,269,037	10,269,037	
給与費	9,039,423,000	9,205,680,938	8,874,594,131	166,257,938	331,086,807	3.73%
委託費	1,754,554,000	1,772,908,188	1,746,694,464	18,354,188	26,213,724	1.50%
設備関係費	1,850,997,000	1,832,980,529	1,987,394,279	-18,016,471	-154,413,750	-7.77%
減価償却費	720,711,000	758,975,702	821,434,777	38,264,702	-62,459,075	-7.60%
機器賃借料	7,188,000	5,925,395	6,465,410	-1,262,605	-540,015	-8.35%
指定管理者負担金他	671,390,000	672,343,720	671,095,156	953,720	1,248,564	0.19%
修繕費	211,051,000	152,644,787	268,014,785	-58,406,213	-115,369,998	-43.05%
機器保守料	239,908,000	242,250,228	219,424,948	2,342,228	22,825,280	10.40%
その他	749,000	840,697	959,203	91,697	-118,506	-12.35%
研究研修費	56,398,000	47,511,272	57,992,258	-8,886,728	-10,480,986	-18.07%
経費	938,008,000	907,007,536	945,160,385	-31,000,464	-38,152,849	-4.04%
通信費	17,388,000	19,372,988	20,459,328	1,984,988	-1,086,340	-5.31%
消耗品費	82,585,000	88,298,230	81,521,554	5,713,230	6,776,676	8.31%
水道光熱費	485,738,000	434,096,677	496,877,651	-51,641,323	-62,780,974	-12.64%
賃借料	134,576,000	151,747,177	140,276,122	17,171,177	11,471,055	8.18%
租税公課	12,797,000	31,224,498	11,824,236	18,427,498	19,400,262	164.07%
その他	204,924,000	182,267,966	194,201,494	-22,656,034	-11,933,528	-6.14%
医業外費用(医療奉仕費用含む)	493,289,000	461,139,884	464,198,563	-32,149,116	-3,058,679	-0.66%
支払利息	29,974,000	21,690,427	47,814,387	-8,283,573	-26,123,960	-54.64%
患者外給食用材料費	1,857,000	1,924,811	1,838,241	67,811	86,570	4.71%
看護師等委託養成費	28,800,000	25,800,000	23,400,000	-3,000,000	2,400,000	10.26%
診療費減免額	9,182,000	4,537,500	7,958,500	-4,644,500	-3,421,000	-42.99%
本部繰出金	3,668,000	3,705,115	3,629,772	37,115	75,343	2.08%
他会計繰出金	4,963,000	12,983,288	3,126,164	8,020,288	9,857,124	315.31%
退職給付債務変更時差異	107,062,000	107,061,691	107,061,691	-309	0	0.00%
その他医業外費用	307,783,000	283,437,052	269,369,808	-24,345,948	14,067,244	5.22%
特別損失	0	20,947,577	20,300,783	20,947,577	646,794	3.19%
固定資産売却損	0	35,912	46,925	35,912	-11,013	
固定資産除却損	0	9,625,685	12,805,517	9,625,685	-3,179,832	-24.83%
前期損益修正損	0	0	7,447,341	0	-7,447,341	-100.00%
その他特別損失	0	6,771,274	1,000	6,771,274	6,770,274	677027.40%
法人税等	0	4,514,706	0	4,514,706	4,514,706	

経常損益(特別収支を除いたもの)	270,984,000	131,352,370	16,369,265	-139,631,630	114,983,105	702.43%
医業損益	16,575,000	-159,316,694	-301,377,992	-175,891,694	142,061,298	-47.14%
純損益	270,984,000	123,984,614	75,584,555	-146,999,386	48,400,059	64.03%

# 貸 借 対 照 表

平成28年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位: 円)

資 産 の 部			負 債 及 び 基 金 の 部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金		4,540,586	買掛金		1,193,100,464
預金		2,622,080,946	未払金		1,060,132,522
医業未収金	3,289,316,785		短期借入金		1,037,600,000
貸倒引当金	46,925,997	3,242,390,788	未払費用		75,588,443
未収金		83,455,124	未払法人税等		2,257,353
有価証券		0	前受金		0
医薬品		71,761,647	預り金		6,035,312
診療材料		0	職員預り金		57,726,583
給食用材料		2,440,011	前受収益		0
貯蔵品		390,604	賞与引当金		328,023,418
前払費用		0	その他の流動負債		1,174,500
前払収収益		25,720,621	流動負債合計		3,761,638,595
未収収益		3,834,780			
短期貸付金		0	2. 固定負債		
繰延税金資産		0	長期借入金		1,952,000,000
その他の流動資産		148,828,839	長期未払金		236,638,490
流動資産合計		6,205,443,946	預り出資		0
			退職交付受入金		0
2. 固定資産			退職給付引当金		2,982,838,741
(1)有形固定資産			医療訴訟引当金		0
建物	128,259,810		長期前受補助金等		293,641,488
建物減価償却累計額	15,441,804	112,818,006	その他の固定負債		0
建物付属設備	605,273,195		固定負債合計		5,465,118,719
建物付属設備減価償却累計額	193,360,233	411,912,962			
構築物	20,522,740		負債合計		9,226,757,314
構築物減価償却累計額	6,721,650	13,801,090			
医療用器械備品	6,738,683,627		3. 基本金		15,986,453
医療用器械備品減価償却累計額	5,425,390,252	1,313,293,375	4. 基金積立金		
その他の器械備品	1,609,178,988		本社交付金		0
その他の器械備品減価償却累計額	1,446,072,527	163,106,461	支部繰入金		0
車両	21,121,030		その他の繰入金		0
車両減価償却累計額	16,608,904	4,512,126	補助金		0
放射性同位元素	0		寄付金		54,040,000
放射性同位元素減価償却累計額	0	0	固定資産再評価益(損)		2,566,395
その他の有形固定資産	55,371,500		固定資産処分益(損)		0
その他の有形固定資産減価償却累計額	5,662,298	49,709,202	基金積立金合計		56,606,395
土地	0				
建設仮勘定	0		5. 利益剰余金		
有形固定資産合計		2,069,153,222	利益積立金		22,930,000
			特別積立金		0
(2)無形固定資産			当期末処分利益(損失)		559,511,655
借地権	0		利益剰余金合計		582,441,655
ソフトウェア	42,054,884				
その他の無形固定資産	104,125		6. 有価証券評価差額金		0
無形固定資産合計		42,159,009			
			基金合計		655,034,503
(3)その他の資産					
有価証券		0			
長期貸付金		111,500,000			
預金		0			
長期未収金		0			
長期前払費用		4,377,625			
施設整備準備積立金		0			
病院建物建設資金出資金		582,495,926			
病院財政調整事業資金出資金		282,177,556			
出資金		217,850			
退職拠出金		584,207,153			
預託金		59,530			
繰延税金資産		0			
その他の固定資産		0			
その他の資産合計		1,565,035,640			
固定資産合計		3,676,347,871			
資産合計		9,881,791,817	負債及び基金合計		9,881,791,817

## 平成27年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
<b>1. 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前当期純利益	128,499,320
減価償却費	768,943,180
所有有形固定資産減価償却費	439,749,044
リース有形固定資産減価償却費	315,743,000
所有無形固定資産減価償却費	13,451,136
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	1,092,000
貸倒引当金の増減	3,563,570
賞与引当金の増減	5,705,795
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	344,410,803
退職払出金の増減	-172,827,228
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-55,713,444
受取利息	-1,145,352
支払利息	21,690,427
有形固定資産売却損	35,912
有形固定資産除却損	8,329,685
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	1,800,000
有形固定資産売却益	0
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	-411,861
医業未収金の増減	-155,681,258
未収金の増減	1,023,522
医薬品の増減	-867,831
診療材料の増減	0
給食用材料の増減	441,981
貯蔵品の増減	214,885
前渡金の増減	0
前払費用の増減	-6,408,014
未収収益の増減	2,710,407
その他流動資産の増減	35,153,524
買掛金の増減	123,525,539
未払金の増減	22,000,921
未払費用の増減	-4,321,782
前受金の増減	0
預り金の増減	2,501,405
職員預り金の増減	4,086,219
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	1,144,500
その他	25,800,000
小計	1,105,296,825
利息の受取額	979,519
利息の支払額	-21,690,427
法人税等の支払額	-2,257,353
<b>業務活動によるキャッシュ・フロー(A)</b>	<b>1,082,328,564</b>

<b>2. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
定期預金の預入による支出	-1,500,000,000
定期預金の払戻による収入	1,500,000,000
有価証券の取得による支出	0
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-464,318,045
所有有形固定資産の売却による収入	20,000
所有無形固定資産の取得による支出	-32,762,448
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	0
施設設備補助金等の受入による収入	51,540,268
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-32,400,000
長期貸付金の回収による収入	4,300,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-36,075,429
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-18,045,673
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	-10,500
預託金の払戻による収入	0
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	0
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー(B)</b>	<b>-527,751,827</b>
<b>3. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の増減	-200,000,000
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-337,600,000
リース債務未払金の返済による支出	-195,525,828
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー(C)</b>	<b>-633,125,828</b>
<b>4. 現金及び現金同等物の増加額(A+B+C)</b>	<b>-78,549,091</b>
<b>5. 現金及び現金同等物期首残高</b>	<b>1,705,170,623</b>
<b>6. 現金及び現金同等物期末残高</b>	<b>1,626,621,532</b>
※ 病院収益合計	19,570,365,440
※ 病院費用合計	19,446,380,826
※ 法人税等計	4,514,706